

J S Lカリキュラム実践事例集

兵庫県J S Lカリキュラム実践支援事業連絡協議会

平成 21 (2009) 年 3 月

目 次

はじめに

1	日本語指導とJSLカリキュラム	・・・ 1
	（1）日本語指導の現状と取組	
	（2）JSLカリキュラムとは	
2	平成19・20年度JSLカリキュラム実践支援事業の取組	・・・ 5
	（1）兵庫県教育委員会	
	（2）各事業推進校及び市教育委員会	
3	成果と課題	・・・ 7
	（1）日本語指導や研修に関して	
	（2）推進体制や連携に関して	
4	実践事例	・・・ 8
	（1）事例活用にあたって	・・・ 8
	（2）JSLカリキュラム実践支援事業推進校の事例一覧	・・・ 9
	小学校低学年(N01～N04)	・・・ 10
	小学校中学年(N05～N08)	・・・ 21
	小学校高学年(N09～N012)	・・・ 31
	中学校・中等教育学校前期課程(N013～N017)	・・・ 41
	（3）日本語リーダー養成研修会の指導事例一覧	・・・ 56
	小学校低学年(N01～N04)	・・・ 57
	小学校中学年(N05～N08)	・・・ 65
	小学校高学年(N09～N012)	・・・ 73
	中学校・中等教育学校前期課程(N013～N015)	・・・ 82

参考

- 事業実施要項
 - ・ 文部科学省
 - ・ 兵庫県
- 協力者一覧
 - ・ JSL協議会構成員
 - ・ 事業推進校
 - ・ 各市教育委員会
 - ・ 実践事例提供校

はじめに

社会や経済のグローバル化が進展する中で、兵庫県には 130 カ国、10 万人以上の外国人県民が居住しています。県内の公立学校には、20 カ国以上、約 4 千人の外国人児童生徒が在籍しています。

平成 20 年 9 月 1 日調査によると、県内公立学校で日本語指導が必要な外国人児童生徒は、702 人となっています。日本語理解が不十分なことや文化、生活習慣の違いなどから疎外感を感じたり、学校になじめずに不登校、長期欠席となったりするなどの問題が生じています。また、授業の内容が理解できずに、学力が十分身につけていないという問題も指摘されています。

そこで、県教育委員会においては、「人権教育基本方針」（平成 10 年）のもと、「外国人児童生徒にかかわる教育指針」（平成 12 年）を策定し、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒に「豊かに共生する心」を培うことをめざした子ども多文化共生教育を推進しています。

特に平成 19・20 年度、日本語指導の一層の充実を図るために、文部科学省の委嘱を受け「J S L カリキュラム実践支援事業」を実施し、事業推進校において J S L カリキュラムを効果的に活用した日本語指導の実践を進めるとともに、連絡協議会を設置して研究協議を重ねてきました。

このたびその成果として、J S L カリキュラムを活用した指導方法の普及・充実を図るため、平成 19・20 年度の各事業推進校における実践事例と、平成 20 年度に実施した「日本語指導リーダー養成研修会」で作成した実践事例をとりまとめ、「平成 19・20 年度 J S L カリキュラム実践事例集」を作成し、関係の皆さまの参考に供することといたしました。

本書で紹介している事例は、それぞれの学校や児童生徒の実情に沿って実践されたものであり、日本語指導が必要な外国人児童生徒への教育の充実を図る上で貴重な資料になるものと考えます。

本書における事例を参考に、各学校において J S L カリキュラムを効果的に活用した取組が展開され、外国人児童生徒に対する支援が一層進められますよう期待いたします。

平成 21 年 3 月

兵庫県 J S L カリキュラム実践支援事業連絡協議会

委員長 水野 マリ子

1 日本語指導とJSLカリキュラム

(1) 日本語指導の現状と取組

本県における日本語指導が必要な外国人児童生徒数は、平成20年9月1日現在、公立学校218校に702名が在籍している。その数は、ここ数年減少傾向にあったが、家族の呼び寄せ等新たな転入により増加している。外国人児童生徒は、特定の都市や学校に集中して在籍している一方で、県下の各市町に分散して在籍している。言語数もベトナム語、中国語、ポルトガル語、フィリピン語、韓国・朝鮮語、スペイン語等23言語にわたっている。

集住地域における学校では、日本語指導の内容や方法は蓄積されてきているが、在籍する外国人児童生徒の実態は多様化しており、一人一人に対応したきめ細かな指導ができにくいという課題がある。一方、分散地域における学校では、日本語指導の経験が浅いため、日本語指導が必要な外国人児童生徒が転入した場合、対応に苦慮するという課題がある。

そのため、平成14年度から日本語指導が必要な児童生徒が在籍するすべての公立学校に「子ども多文化共生サポーター」を派遣するとともに、平成16年度から「日本語指導研究推進校」を県下で4校指定し、日本語指導の在り方等について実践的な研究をすすめてきた。当初は各学校とも試行錯誤の中でそれぞれ独自の取組を進めている状況であったが、校内組織づくりや研修の実施など初期の受け入れ体制、漢字・語彙指導、日記指導など初期の日本語指導の在り方、さらに初期以降の教科書での指導方法を明らかにする一定の成果を上げてきた。

しかし、日本語の初期指導から教科学習へつながる段階の日本語指導カリキュラムが必ずしも十分に確立されておらず、日本語指導に関する指導案やワークシートの作成にまでは至っていなかった。

そこで、平成19・20年度に文部科学省の委嘱を受け、「JSLカリキュラム実践支援事業」を実施し、兵庫県及び神戸市、芦屋市、伊丹市、姫路市の4市で、教員の指導力向上を目標としたワークショップ（研修会）を開催するとともに、県内の公立小学校3校、中学校1校、中等教育学校1校、計5校の事業推進校において、JSLカリキュラムを活用した指導実践を行い、学校における効果的かつ効率的な日本語指導の充実に努めてきた。

(2) JSLカリキュラムとは

ア 学習に参加するための学ぶ力の育成

来日して間もない外国人児童生徒は、日常の生活を送るための日本語や平仮名・片仮名、基本文型などを学んでいる。来日後1年も経てば、ほとんどの外国人児童生徒は日常会話ができるようになり、日本語が理解できているように見える。

しかし、授業では何も言えないでただ黙って座っているだけになってしまう外国

人児童生徒が少なからず見受けられる。その理由は、授業では生活場面を中心とした話し言葉から、書き言葉による「読む」「書く」を含む言語能力を求められることや抽象的・概念的な言葉や記号などの理解が必要となるからである。

学校での学習活動に参加するためには、日常会話ができるだけでなく、抽象的・概念的な命題を理解する能力、また、子どもたちの体験を日本語で表現したり、学習の過程やその結果を日本語でまとめたり、さらには学習したことを他の子どもたちに向けて日本語で表現したりする力が必要である。「少し分かる」「何となく分かる」といった曖昧な理解ではなく、他者に向けて自分の理解を日本語で発信できるほどの、日本語の理解が必要となるのである。

イ 日本語指導と教科指導の統合

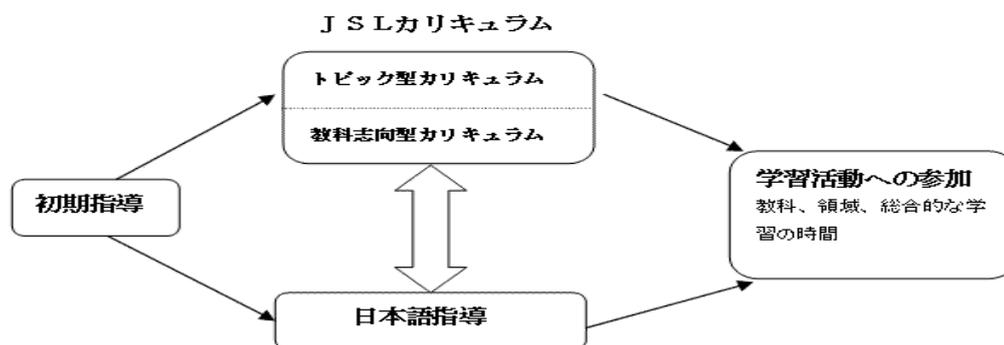
学習活動に日本語で参加するための力（＝「学ぶ力」）をつけるためには、言葉だけを取り出した日本語指導だけでは十分ではない。そうした力を育成するためには、日本語指導と教科指導とを統合的にとらえていく必要がある、そのための手だてが求められる。そこで、日本語指導と教科指導を結びつけることで、児童生徒が学習活動に日本語で参加するための力を育成するために開発されたのが「JSL（Japanese as Second Language：第2言語としての日本語）カリキュラム」と呼ばれるものである。

文部科学省は、日本語指導が必要な外国人児童生徒を学校生活に速やかに適応させるため、平成13年度から「学校教育におけるJSLカリキュラム」の開発をすすめて、平成15年7月には、小学校における「トピック型」「教科志向型」JSLカリキュラムについて最終報告を取りまとめ、公表した。また、平成19年3月に、中学校編として国語科、社会科、数学科、理科、英語科の5教科について取りまとめている。

ウ JSLカリキュラムの考え方

① ねらい

日常的な会話はある程度できるが、学年相当の学習言語が不足し、学習活動に支障が生じている児童生徒に対して、学習活動に日本語で参加するための力の育成を図るためのカリキュラムである。児童生徒の初期指導を終えた後に、日本語指導と並行して実施するためのもので、文型や語彙などを中心にした日本語指導とこのJSLカリキュラムを有機的に組み合わせることにより児童生徒を学習活動に参加させていくことをねらいとしている。



出典：『学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について（最終報告）』

（平成15年7月 文部科学省初等中等教育局国際教育課）

② 活用に当たってのポイント

- ・学習項目を固定した順序で配置するのではなく、生育歴、学習歴、日本語の力、発達段階など、多様な児童生徒の背景や実態に応じて教師（支援者）が柔軟にカリキュラムを組み立てる。
- ・教科学習の流れに即して日本語の習得を図るものであり、児童生徒が獲得すべき概念・知識である「重要な学習事項」と、読む・書く・聞く・話すといった「重要な学習活動」を個々の児童生徒の状況を踏まえて整理・設定し、具体的な支援を行う。
- ・日本語の力が十分でない児童生徒を日本語での学びに参加させるには、通常の授業よりもきめ細かな指導が必要であり、そのための活動を細かいステップにわけ（「スモールステップ化」と呼ぶ）、それぞれ丁寧に進めていく。
- ・児童生徒の理解を促すよう、具体物や直接体験に基づいた学習を重視する。
- ・定型的で固定的な日本語ではなく、児童生徒が理解しやすい日本語を使い、様々な日本語表現を工夫しながらすすめる。
- ・自分から日本語を使って学習内容を表現、発信する場を設定する。

エ カリキュラムの形態

① 「トピック型」JSLカリキュラム

教科を問わず見られる「体験」（体験を日本語で表現する）→「探求」（他の児童生徒や教師とともに調べる）→「発信」（成果を日本語で表現する）という学習活動に日本語で参加するための「学ぶ力」の育成をめざす。児童生徒の興味関心や「学ぶ力」に応じてトピックや学習活動を設定し、様々な日本語表現のバリエーションを用意し、学習活動への参加を促す。

② 「教科指向型」JSLカリキュラム

各教科の授業の構造に応じ、各教科の学習活動に日本語で参加するための力

(=各教科における「学ぶ力」)を育成するために、体験等から各教科の知識、概念等の理解に至る学習の過程で、児童生徒の理解に応じたきめ細かな学習支援と日本語支援を行う。

オ AUとAUカード

学習活動はさまざまな活動単位 (Activity Unit (AU)) から成り立っている。そこで「体験」「探求」「発信」の各局面を構成するそれぞれの活動を行うために必要な日本語表現のバリエーションを組み合わせた「AUカード」により、児童生徒の実態に合わせた授業づくりを支援する。

【AUカードの一例】

局面：体験 A「知識・体験を確認する」

A-4 AU：経験を確認する ① 「経験の有無を確認する-1」 よく使う言葉 → (動詞) こと どこ 前に いつ		
基本形	*～したことがありますか。	*はい、(どこで 何回 だれと) したことがあります
バリエーション	*～したことがありますか。	*はい、あります。
	いつ、どこでしましたか。	(いつ どこで) しました。
	*前に、(場所) で～しましたか。	*はい、しました。
	*いつ～をしましたか。	* (いつ) しました。
	どこですか	(どこで) です。

※ 本冊子に収録されている実践事例の学習活動の欄に、A-4、H-5などの記載があるが、それが「AUカード」である。

注：「AUカード」の詳細については、『学校教育におけるJSLカリキュラムの開発について(最終報告)』(平成15年7月 文部科学省初等中等教育局国際教育課)を参照
(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm)

カ JSLカリキュラムの有効性

JSLカリキュラムは、日本語指導が必要な外国人児童生徒に対して、一人一人の日本語能力などに合わせて学習目標を設定し、分かりやすい日本語で学習を進めていくことに他ならず、それはまさに、「個に応じたきめ細やかな指導」と言える。

これまで、日本語指導に関する教材が数多く作成されているにも関わらず、それが共有できないのは、子どもたちの生活背景、学習歴、日本語の力、認知発達などの多様性に対応できないためである。JSLカリキュラムでは、固定した内容を一定の順序性をもとに配列するのではなく、一人一人の子どもの実態に応じて教師・指導者自らがカリキュラムを作るためのツールという意味合いを持たせている。このようなJSLカリキュラムの考え方は、学習につまずきがちなすべての児童生徒にとっても有効な指導方法と言える。

2 平成 19・20 年度 J S L カリキュラム実践支援事業の取組

(1) 兵庫県教育委員会

J S L カリキュラム実践支援事業の実施にあたっては、組織的・計画的な取組となるよう「J S L カリキュラム実践支援事業連絡協議会」（大学教員、国際交流協会日本語教育指導員、日本語指導研究推進校担当教員及び関係市教育委員会担当指導主事で構成）を平成 19 年度は 4 回、平成 20 年度は 3 回、計 7 回開催し、専門的な観点から助言を受けながら J S L カリキュラムを活用した指導の在り方とその普及・啓発、研修等に関して協議と情報交換を行った。

また、指導する教員への J S L カリキュラムを活用した指導方法の普及を図るため、「日本語指導担当教員等研修会」（ワークショップ）を平成 19・20 年度それぞれ 2 日間にわたり開催した。先進校の授業を V T R で視聴して研究協議を行ったり、研究者より J S L カリキュラムの理論や授業づくりの講義を受けたりして、実践への意欲と指導力を高めていった。

さらに、平成 20 年度は県内各地域において J S L カリキュラムを活用した日本語指導を推進するリーダーを養成するため、「日本語指導リーダー養成講座」（ワークショップ）を計 3 日間開催した。これは、1 名の研究者を理論的指導者とする 3 回の連続講座であり、指導の一貫性を図った。受講者が J S L カリキュラムによる実践事例を持ち寄り、授業の工夫や配慮すべき点、また、予想される問題点などの研究協議を行った。最後に、研修の成果として初心者が参考となるような『J S L カリキュラム実践集』（研修まとめ）を作成した。

(2) 事業推進校及び市教育委員会

県下の 4 公立小・中学校と 4 市教育委員会、県立芦屋国際中等教育学校において、それぞれの課題に応じて研究授業・公開授業、ワークショップ等を実施し、J S L カリキュラムを活用した指導のあり方についての研究や普及・啓発をすすめてきた。

ア 神戸市

市立神戸生田中学校が日本語指導における市内の「センター校」として、授業および放課後において J S L カリキュラムを活用した教科指導および日本語指導を実施した。学習活動に日本語で参加する力を身につけさせるために、神戸大学留学生センターと連携し、日本語入門クラスと日本語移行期クラスの 2 つの「J S L 教室」を設けた。指導者 1 名あたり数名の生徒を担当し、放課後毎日約 2 時間、日本語指導を続けた。センター校方式で運営することで、市全体から市立中学校の対象生徒が参加することができた。

イ 芦屋市

市立浜風小学校を事業推進校として、2 年間で計 6 回のワークショップを開催し

た。ワークショップでは日本語指導の研究者、実践者を招聘し、J S Lカリキュラム理論について理解を深めるとともに、模擬授業を実施し指導者のスキルアップを図った。また、文部科学省が開催した研修会への参加報告も行われた。ワークショップには芦屋市国際交流協会等の関係機関・団体も参加し、ネットワークを活かしながらJ S Lカリキュラムの周知を図った。

ウ 伊丹市

市立池尻小学校を事業推進校として、算数科の授業を中心にJ S Lカリキュラムを活用した授業実践をすすめてきた。また、市内小・中・特別支援学校26校の国際理解教育担当教員、J S Lカリキュラム実践校全職員を対象に、日本語指導の現状と課題、J S Lカリキュラムについての理論、母語と日本語との関係などについての理解を目的としたワークショップを開催した。このワークショップには初心者への参加が多かったが、リライト教材（教科書本文を児童の日本語力に応じて書き換えた教材）の作成を実際に体験することで、言葉をより分かりやすく伝える方法や個々の児童の実態に合わせた指導展開、深い教材解釈の必要性などを再認識した。

エ 姫路市

事業推進校の市立花田小学校では「校内J S Lカリキュラム推進委員会」を組織し、校内研修会や研究授業の実施と公開を積極的に実施した。平成20年度には市内の小・中学校を中心としたネットワークが、高校・大学にまで広がった。さらに民間の日本語教育支援団体や県・市の国際交流協会、学習支援者等とのつながりも深まり、それらの支援者とともにJ S Lカリキュラムに基づく実践が取り組まれた。また、市教育委員会では、3日間にわたる指導者研修会を実施し、指導者のスキルアップやJ S Lカリキュラムの普及に努めた。

カ 県立芦屋国際中等教育学校

日本語指導が必要な外国人生徒や海外からの帰国生徒が数多く在籍する学校であり、日本語習得が不十分で教科学習の理解・習得が進まない生徒を対象に、国語・数学・理科で取出授業の実践を行った。また、併設校である県立国際高校敷地内に設置されている「子ども多文化共生センター」のJ S Lカリキュラムにかかる資料や教材を活用するなど、積極的に研究実践に取り組んだ。

研究実践や研修を通して、J S Lカリキュラムが学習に課題のある生徒の支援につながる効果的な教授法であるとの理解が教員に広がるとともに、各授業での使用表現や語彙及び授業展開を再検討する機会となった。また、J S Lカリキュラムの導入により、校内の「日本語教育推進委員会」の構成員が、従来の国語・日本語という小さな枠組みから、日本語支援が必要な生徒の担任、各教科担当、各教科主任、外国語講師をも含む職員にまで広がり、情報共有・共通理解のもと連携が強まった。

3 成果と課題

(1) 日本語指導や研修に関して

① 成果

ア 事業推進校、研修会受講者においては、J S Lカリキュラムについての理解が深まり、授業における教科目標と日本語指導の目標を踏まえ、ワークシート等を使いながら効果的に指導することができるようになってきた。

イ J S Lカリキュラムを活用した指導や研修を通じて、外国人児童生徒へきめ細かなステップを踏んだ「分かりやすい授業」を行う必要性を再認識した。このことは、学習が遅れがちなすべての児童生徒への指導にも生かされ、授業の改善につながってきた。

② 課題

ア J S Lカリキュラムを活用して指導を行う教科が国語、算数といった教科に限られる傾向がある。様々な教科や道徳などにもJ S Lカリキュラムを積極的に活用し、外国人児童生徒の日本語能力の向上と学習意欲を高める取組が必要である。

イ 日本語指導が必要な外国人児童生徒の日本語能力の正確な測定や測定結果を踏まえた指導方法の改善、それに伴う研修会の開催などを継続的且つ広域的に行う必要がある。

(2) 推進体制や連携に関して

① 成果

ア 「点」の状態であったJ S Lカリキュラムに基づく実践が、J S Lカリキュラム実践支援事業の実施により、県内に広がりつつある。

イ 事業実施校や研修会受講者の学校においては、「日本語指導委員会」を設置するなど、組織的な取組が進んできた。また、国際交流協会や地域のNGO／NPO等関係団体、さらには、大学などの研究機関などにつながり、これらのネットワークを生かしながら取組をすすめようとしている。

ウ 研修会や実践交流を通して、担当者の自覚やスキルが高まり、学校間や担当者間の繋がりが強固になってきた。担当者が自主的に集まり、研究者とも連携を取りながら勉強会を行うなどの取組をすすめていくこととなった。

② 課題

ア 指導者のスキルアップや指導者・支援者の確保に向け、大学等の研究機関やNGO／NPO等関係団体との緊密な連携が、今後も必要である。

4 実践事例

(1) 事例活用にあたって

実践事例は、平成19年度、20年度の2年間にわたるJSLカリキュラム実践支援事業における実践事例と平成20年度実施した「日本語指導リーダー養成研修会」で作成された実践事例から選定して掲載した。選定にあたっては、学年、教科をできるだけ幅広く掲載するようにした。

なお、本書では、実践事例が二つの様式で示されている。一方は平成19・20年度のJSLカリキュラム実践支援事業実施校の文部科学省への報告様式であり、他方は平成20年度実施した日本語指導リーダー養成研修会で演習に用いた様式である。

日本語指導リーダー養成研修会では、学習活動の展開を45分～50分の一授業時間の内容に統一している。研修会では、1時間の授業をいかに効果的に行うかという観点から、実践事例を検討していったからである。教科目標と日本語目標の両方を達成するために、効果的な学習活動を考察していった。

また、実践事例には、「活動のポイント・工夫」「こんなとき、どうする？」のコーナーを設け、授業を組み立てるときのヒントを提示した。様々な疑問に答えているので、授業を組み立てる参考としていただきたい。

なお、日本語指導リーダー養成研修会での実践事例の検討・作成にあたっては、東京学芸大学国際教育センター准教授臼井智美先生を講師にお迎えし、教科目標、日本語目標をはじめ、教材や準備物、活動のポイント・工夫等に至るまで、きめ細かなご指導いただいた。

この冊子に掲載している実践事例は、実施校の児童生徒の実情に沿って実践されたものであり、掲載事例と全く同じ実践を行うことは困難であるが、一つのモデルとして参考になる。

各校の日本語指導が必要な外国人児童生徒の学習歴、日本語の力、認知発達などの実態に沿って、活動の流れや教材・教具等を手直ししながら、活用を図っていただきたい。

(2) JSLカリキュラム実践支援事業推進校の事例一覧

〈小学校・低学年〉

NO	学 年	教 科	単 元 名
1	1 年	トピック型	はるが いっぱい
2	2～4年	トピック型	化石のレプリカを作ろう
3	2 年	算 数	かくれた数は いくつ
※4	2 年	国 語	たんぼぼ

〈小学校・中学年〉

NO	学 年	教 科	単 元 名
5	3 年	国 語	いろいろなお祭りについて調べよう
6	3 年	算 数	か さ
※7	3 年	総 合	料理について調べよう
8	4 年	算 数	面 積

〈小学校・高学年〉

NO	学 年	教 科	単 元 名
※9	5 年	総 合	自分史を書き記そう
※10	5 年	算 数	くらべ方を考えよう「割合」
※11	5 年	総 合	自然学校
※12	6 年	算 数	単位量あたりの大きさ（速さ）

〈中学校・中等教育学校（前期課程）〉

NO	学 年	教 科	単 元 名
13	1 年	国 語	物語文「オツベルと象」
※14	2 年	数 学	合同な図形
15	2 年	社 会	欧米諸国の衝撃と日本
16	2 年	社 会	アジアの日本から世界の日本へ
※17	2 年	理 科	電 流

注1：※印の実践事例は平成19年度文部科学省様式で作成したもの。

注2：その他の実践事例は平成20年度文部科学省報告様式で作成したもの。

NO 1	小学校1年・トピック型・はるが いっぱい
------	----------------------

1 学習活動の実際

(1)活動名 「はるがいっぱい」(みつけたことをおしえあう)	
(2)対象児童の実態 (1人)	
A 児	<p>第1学年 国籍(ブラジル) 母語(日本語)在籍年数(4ヶ月)</p> <p>日本語の力に関する実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親ともに日系ブラジル人であり、日本語は十分話せないけれど、家庭での会話は日本語を使用している。本児の日本語の力については、日常会話は十分にできるが、書くことは未修である。 ・平仮名についても、家庭で学習しているようであり、授業中の発表も多く見られる。 ・授業に積極的であり、挙手、発言も多い。
(3)目標	
<p>単元設定のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や通学路で出会った人や身近な自然と積極的にかかわり、そこで見つけたものを、友だちや教師に伝えることを通じて、季節による自然や生活の変化に気付くとともに、地域の人や自然とのかかわりを広げようとする事ができる。 <p>日本語指導のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちや教師に積極的に話をしようとする。 ・クラスの仲間とのかかわりを広げるため、コミュニケーション能力を育成する。 <p>◇【教科指導の目標】</p> <p>生活科の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと教師と一緒に校舎内や校庭を回り、自然や人々の暮らしに関心をもって、すすんで春の兆しを探ることができる。 <p>◆【日本語指導の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「(私は) ○○を見つけました。」「△△を見つけました。」と表現することができる。 ・「(私は) △△で○○を見つけました。」と続けて表現することができる。 ・「××と思いました。」と自分の思いを表現することができる。 	

2 学習活動

指導者（学級担任）、指導補助者（JSL 担当教員）				
全体の時間数（2時間）				
段階	学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
体験	① 友だちと一緒に学校を探検したときの事を思い出し、春の兆しを見つける。	在籍学級	<ul style="list-style-type: none"> ・ 写真を見せることで、思い出をより鮮明にする。 ・ 対象児童の発見の喜びが残るような写真を事前に撮っておく。 ・ 発見時に、発見した事物の名称を確認しておく。 	◇「2. がっこうをたんけんしよう」で、歩いたときの写真を見せ、参考にする。 ◆T「なにをみつけましたか？」（写真を提示） ◆S「私はさくらをみつけました。」 ◆T「どこで見つけましたか？」（写真を提示） ◆S「運動場で見つけました。」 ◆S「私は運動場でさくらを見つけました。」
探求	② ワークシートに絵を記入して、発表の準備をする。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵を描きながら、「さくら」「みつけた。」「運動場」などの言葉を繰り返し聞かせ、発音させておく。 	◇ワークシートに記入することで、発表の準備とする。
発信	③ 出来上がったカードを使って、発表を行う。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちに発表することの楽しさを経験させる。 	見つけたときの気持ちを引き出し、書かせる。 ◆T「さくらを見て、どう思いましたか？」 ◆S「きれいだった。」

3 成果

① 対象児童に対する成果

○教科指導としての成果

本授業は、生活科の一斉授業の指導案とほぼ同じである。しかし JSL カリキュラムの視点に立ち、よりきめの細かい配慮を行っている。そのことにより本児童だけでなく、他の配慮の必要な児童にとっても、一層取組が容易になり、身近な自然や人々の暮らしに関心を持つことができ、さらに発表活動へ意欲を持って取り組むことができた。

○日本語指導の成果

「私は○○をみつけた。」「△△で見つけた。」の組み合わせから「私は、○○で△△を見つけました。」との表現を身につけることができた。また、そのときの心情を表現することができた。

② その他（他の在籍学級の児童や学校・保護者等学習環境に対する波及効果等）

学級の児童と一緒に遊んだ時の写真を提示したりその時の様子を細かに聞いたりして授業を進めているので、他の児童との接点が増えてきた。

4 課題

○教科指導としての課題

在籍学級担任と綿密に授業を構成することが、大変大事だが、具体的な授業の一つ一つについて相談する時間的な余裕がない現状がある。しかし、より細やかな授業へのアプローチは、本児のみならず、在籍学級の他の児童にとっても大変有用であるので、より積極的に在籍学級担当と連携し、創意工夫のある授業を展開する必要がある。

○日本語指導としての課題

今回の場合、心情を引き出すことが十分にできなかった。そのためにこちらが用意した「きれい。」という言葉のみに終始してしまい、教師が意図的に言わせている部分を強く感じた。

少ない語彙の中から、心情を引き出すためには、本児とともに学校を探検している際に、心情に訴えかけ、その場面で日本語を導入していかなければならない。

NO 2	小学校2～4年・トピック型・化石のレプリカを作ろう
------	---------------------------

1 学習活動の実際

(1)活動名 化石のレプリカを作ろう	
(2)対象児童の実態 (4人)	
A 児	第2学年 国籍(ベトナム) 母語(ベトナム語) 在籍年数(8か月)
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 日常会話は簡単な内容なら理解できる。教師の簡単な指示は理解できる。 ・在籍学級での学習参加の様子 見て理解できる内容に関しては参加できるが、抽象的な概念が必要な内容は理解しにくいことが多い。 ・学習環境 家庭学習は頑張っているが、家族に日本語をよく理解出来る人がいないため、日本語が多く使われている内容はできない。
B 児	第3学年 国籍(ベトナム) 母語(ベトナム語) 在籍年数(1年2か月)
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 日常会話はある程度できる。読み書きも何とかできるが、十分ではない。 ・在籍学級での学習参加の様子 国語科以外の教科は、在籍学級で学習している。周りの助けを必要とするが、学習に対する意欲は高く、積極的に発言をする。 ・学習環境 家庭での学習を丁寧にする。日本語を理解出来る家族がいて、教えてもらうことができる。
C 児	第3学年 国籍(ベトナム) 母語(ベトナム語) 在籍年数(3年)
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 日常や学習の場面での会話ができ、読み書きも何とかできるが、十分ではない。 ・在籍学級での学習参加の様子 国語科以外の教科は、在籍学級で学習している。教科書の音読はすらすらできるが、内容は理解できていないことが多い。 ・学習環境 家庭ではベトナム語と日本語の両方を使っている。宿題などは家庭ですることができる。
D 児	第4学年 国籍(ベトナム) 母語(ベトナム語) 在籍年数(1年)
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 日常や学習の場面での会話は何とかできる。読み書きも何とかできるが、十分ではない。 ・在籍学級での学習参加の様子 教師や他の児童が言っていることはほぼ理解出来る。しかし、自分から発信することはあまりない。 ・学習環境 日本とベトナムを行き来することが多く、日本語が定着しにくい。家庭では日本語が理解できる人がいない。
(3)目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・化石のレプリカに興味をもち、その色や形を意欲的に観察することができる。 ・体験したことや思ったことを作文にすることができる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「大きさは～です。」「色は～です。」「形は～です。」などの文型にしたがって、観察したことを表現することができる。 ・レプリカ作りをして思ったことを作文にすることができる。 	

2 学習活動

指導者 指導者（日本語指導担当教員），指導補助者（日本語指導支援者）				
全体の時間数（2時間）				
段階	学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
体験	① 恐竜や化石について知っていることを確認する。実際の化石を見て、触ってみる。	取り出し	<ul style="list-style-type: none"> 化石や恐竜がどのようなものか話し合わせる。ジェスチャーや絵，言葉で発表することを奨励する。 実物の化石を示す。実際に化石を触ってみて，化石の様子を観察させる。 観察して気付いたことを板書しておき，活動を終えた後，それを読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆恐竜を知っていますか。 ◆化石を知っていますか。 ◇化石を触って気づいたことを言いましょう。 ◆大きさはどうですか。 ◆形はどうですか。 ◆色はどうですか。 ◆触るとどうですか。
探求	② 石膏，油粘土のレプリカを作る。		<ul style="list-style-type: none"> 作り方を示す絵を用意する。 石膏を袋から移し替えるとき，「1杯，2杯」という表現を使って数える。石膏と混ぜ合わせる水も同様にする。 レプリカが出来ていく様子について具体的に問いかけ，その変化に着目させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇化石のレプリカを作りましょう。 ◆スプーンで数えるときは，「1杯，2杯」と数えます。 ◇レプリカを観察しましょう。 ◆硬いですか。柔らかいですか。
発信	③ 変化を観察する。 ④ 完成したレプリカに色を塗る。 ⑤ 化石のレプリカ作りでしたことや感想を書き，発表する。		<ul style="list-style-type: none"> 発表しやすいようにワークシートに文を書かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇化石のレプリカを作るのに，どんなことをしましたか。 ◇感想を書きましょう。

3 成果

<p>① 対象児童に対する成果 レプリカ作りの学習に興味をもって参加することができた。化石を触り，その様子を表現することができた。他の児童の意見や感想を聞きながら，自分の意見をまとめることができた。また，化石のレプリカを作ったことから，化石や恐竜についてもっと知りたいという意欲が生まれ，化石についての本を読む学習に発展させることができた。</p> <p>② その他（他の在籍学級の児童や学校・保護者等学習環境に対する波及効果等） 在籍学級の児童に，作成したレプリカを見せながら化石について説明することで，他の児童も化石や恐竜に興味をもつことができた。</p>
--

4 課題

<ul style="list-style-type: none"> ○ 児童それぞれの日本語の力が異なるのに対し，提示したワークシートは同じだったため，高レベルの児童の日本語の力を十分に高めることができなかった。個に応じたワークシートの創意工夫が課題である。 ○ 化石に興味をもたせることはできたが，化石についての学習は第6学年理科の学習内容なので，直接教科学習と関連させることができなかった。もっと教科学習につながる効果的なトピックを考える必要がある。
--

NO 3	小学校2年・算数科・かくれた数は いくつ
------	----------------------

1 学習活動の実際

(1)学習指導要領での指導学年と領域 第2学年（ 数量関係 ）	
(2)単元名または活動名 「かくれた数は いくつ」	
(3)対象児童の実態 （1人）	
A 児	<p>第2学年 国籍（中国）母語（中国語）在籍年数（9か月）</p> <p>〈話す・聞く〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや友だちとの日常会話はでき、簡単な具体的指示はわかる。 <p>〈読む〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名はほぼ読める。片仮名・漢字は、支援を必要とする場合がある。 <p>〈書く〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平仮名はほぼ書ける。片仮名・漢字は、支援を必要とする。 <p>〈在籍学級での学習参加の様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習への関心や意欲は高い。学習態度は真面目だが、集中力に欠ける。 ・文章題については、文意を捉えてイメージ化することが容易にはできない。 <p>〈学習環境等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題は毎日提出する。学習用具も忘れず準備できている。 ・実技指導員とも、本読みの練習を続けている。
(4)目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・文意を捉えて、図に描くことができる。 ・逆思考の問題を解くことができる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・考えたことを、適切な日本語を用いて表現することができる。 	

2 学習活動

指導者 指導者（学級担任） 指導補助者（日本語指導担当教員）			
全体の時間数（9時間）			
学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
①ワークシートにより、先行学習をする。	取り出し	○簡単な順思考の文章題を復習させる。 ○逆思考の問題文の文意の把握、線分図の作図の意味とその図の描き方を、ワークシートによる演習により、理解させる。	◆A-6 経験を確認する③ T「1年生のとき、文章題を学習したことを、覚えていますね。」 ◇順思考の文章題を復習し、文意を捉えて絵や図にすることを確認する。 ◆A-3 知識を確認する③ T「文章題を絵や図にして考えることを、学習しましたね。」
②教科書とワークシートにより、理解を深める。	同室複数 在籍学級 (TT)	○演習中、つまづいたとき、ワークシートを提示してふり返ることで、思考の支援とする。	◆K-11 絵や図などで表現する② T「考えたことを、図を使ってお話して下さい。」
③ワークシートの問題を解くことで、まとめとする。	取り出し	○ワークシートを使った演習により定着を図る。	◆K-5 わかったことを表現する① T「『かくれた数はいくつ』の学習で、わかったことをお話して下さい。」

3 成果

①対象児童に対する成果

本単元は、多くの児童が苦手だと感じている文章題の単元である。さらに、小学校算数科において初めて履修する「逆思考の文章題」である。

これまでの文章題の学習でようやく「わかってきた。」と感じていた自信が、本単元の学習により、つまずきや自信喪失に変化するかもしれないと考えられた。

そのため、学級での指導が始まるまでに、「取り出しによる個別指導」により「先行学習」を行い、「順思考の文章題の復習」と「逆思考の文章題の導入」を学習した。

そのとき、「児童の生活実態に即した問題の場面設定」を工夫することや、「絵や図に描いてイメージ化するスキルの向上」を図れるように心がけて指導した。

その結果、「問題文の文意を正しく捉える」ことや、「文意の数量関係を正しく図に表す」こと、それを「演算決定をして、式と答えに表す」ことの手順と技能を身につけることができた。

まだ完全に習得できたとは言えないが、初めにねらいとしていた「達成感や自信を味わう」ことができ、在籍学級での「友だちとともに学ぶ楽しさ」も経験でき、理解が深まるという成果があった。

②その他

在籍学級においては、「式や答えにする前に、まず、図に描いてみる」という習慣の定着と、「図の描き方」をていねいに指導したことで、「文章題がわかるようになってきた。」と感じる児童が増えてきたことは、確かな成果と考えられる

4 課題

○ 本児の学力の定着・向上を図るため、児童の実態に応じた先行学習による事前学習やスモールステップの指導内容や指導時間に変更して学習展開を行った。

対象児童が少ないため、このように個々の児童の実態に応じたきめの細かい対応ができたと思われる。対象児童が多い場合の対応は、「教材の作成等」に様々な工夫が必要になると考えられ、今後の大きな課題である。

○ 学習中に学級担任と日本語指導担当の「使う言葉」を共通なものとすることも大変重要な要素である。今回も「共通理解」は図っていたつもりだが、細部での「言葉遣いの違い」があった。児童の指導上には支障はなかったが、こうした細やかな配慮も今後の課題である。

NO 4	小学校2年・国語科・たんぽぽ
------	----------------

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域

2 学年	(C 読むこと：説明文)
------	--------------

(2) 単元名

順序に気をつけて読もう「たんぽぽ」

(3) 対象児童の実態 (1人)

A 児	<p>2 学年 国籍 (ベトナム) 母語 (ベトナム語) 在籍年数 (2 年 7 ヶ月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語の力 日常や学習場面での会話は何とかできる。読み書きもなんとかできるが、十分ではない。 ・ 在籍学級での学習参加の様子 音読練習には進んで参加し、分ち書きに従ってはっきりと音読できる。漢字も何とか読めるが、文意を理解しているわけではなく、意味のわからないままに、文字を追って音読している。 「たんぽぽ」という言葉は聞いて知っているが、どれがたんぽぽであるかはわからない。
--------	--

(4) 単元設定の理由とねらい

<p>「たんぽぽ」には、日常よく使われる言葉（じょうぶ・ふむ・つみとる・生える・夕方・日がかける・よる・朝・日がさす…など）が数多く登場する。また、身近な花なので、実際に「つみとる」ことや「花のあつまりを数える」ことも容易である。文字は読めるが、意味は理解できないA児にとって、身の回りでよく使われている言葉を目で見て理解するのに適した教材である。写真や挿絵だけでは理解しにくい表現は、実際に自分の手ですることによって母国語と関連づけて覚え、日本語のままに体得できるものと考え、本単元を設定した。</p>
--

(5) 目標

<p>○国語科の目標 順序に気をつけて、書いてあることを読みとることができる。</p> <p>○日本語指導の目標 「たんぽぽ」に出てくる言葉を知り、実物と結びつけてその意味を理解することができる。</p>
--

(6) 指導者

日本語指導担当教員

(7) 学習活動 (全体の時間数 4時間)

子どもの活動	活動形態	有効だった支援 (◇学習活動への参加をうながす支援) (◆日本語の理解や表現をうながす支援)
①たんぽぽの花を探し、根・茎・葉を知る。	取り出し	◇校庭に出て、たんぽぽの花を探す。 ◆たんぽぽの花を知っていますか。 A-2 ◇写真を見ながら、色に注目して探す。 ◆たんぽぽはどんな色をしていますか。 A-1 ◇たんぽぽを見てさわりながら、根・茎・葉という名称を知る。 ◆これは～です。 F-6
②たんぽぽの根を見る。		◇100cmの定規を横に置いて長さをくらべ、「長い」を実感させる。 ◆自分の背の高さとくらべてみましょう。どちらが長いですか。 C-8
③小さな花のあつまりをつくる。		◇小さな花を一つずつ取って黒色画用紙に並べてはり付ける。 ◇小さな花がいくつあるかを数え、「あつまり」を実感させる。本文の数とくらべて「多い」か「少ない」かを考えさせる。 ◆180とくらべて多いですか。少ないですか。 C-8
④くきと綿毛を見る。		◆綿毛で遊んだことはありますか。 A-4 ◇茎や綿毛で遊んだことを話す。 ◆どんなことをしたか話してください。 K-8

(8) 教材・教具

たんぽぽの写真・挿絵のコピー

(9) ワークシート

段落ごとのワークシート

2 成果

① 対象児童

実物を見ながら考えることで、文字からでは意味のわからなかった言葉の意味を理解することができた。学習に意欲を持ち、自ら休み時間にたんぽぽを探したり、小さな花をはり付けたものを友だちに見せたりしていた。その際、本文に出て来た言葉を使って話そうとしていた。

② 在籍学級児童

A児の持ち帰った「小さな花の集まり」を見て、「集まり」の意味を実感することができた。

3 課題

- 文脈にそった言葉の意味は理解できたが、目標の「順序に気をつけて」には迫れなかった。
- 「目で見てわかるもの」や体験できる言葉の意味は理解できたが、抽象的な言葉（生える・熟す）などは、理解しにくかった。
- 在籍学級の児童との関わりが少なかった。

NO 5	小学校3年・国語科・ いろいろなお祭りについて調べよう
------	------------------------------------

1 学習活動の実際

(1)学習指導要領での指導学年と領域 第3学年 (C 読むこと)	
(2)単元名 いろいろなお祭りについて調べよう「つな引きのお祭り」	
(3)対象児童の実態 (1人)	
A 児	第3学年 国籍(ベトナム) 母語(ベトナム語) 在籍年数(1年3か月) <ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 日常会話はある程度できる。読み書きも何とかできるが、十分ではない。 ・在籍学級での学習参加の様子 音読練習には進んで参加し、分かれ書きに従ってはつきり読める。読める漢字が増えてきている。 ・学習環境 家庭での学習を丁寧にする。日本語を理解できる家族がいて、教えてもらうことができる。
(4)目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの町の綱引きの様子について読み取ることができる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「～県 ～市 ～」という地名の言い方に慣れ、使うことができる。 ・それぞれの祭りについて、「いつ」「どこで」「だれが」「どんな祭りか」を探することができる。 	

2 学習活動

指導者（日本語指導担当教員） 日本語指導支援者（なし）			
全体の時間数（10時間）			
学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
<p>①「祭り」について知っていることを言う。</p> <p>②最初の写真を見て、何の写真か考える。</p> <p>③写真のスライドを見ながら、全文を聞く。</p> <p>④3つの町の名前を答える。</p> <p>ワークシートに書き込む。</p>	取り出し	<ul style="list-style-type: none"> ・現在習得している語彙を使って説明するように促す。難しい場合は、教師が補足して文にする。 ・教科書の最初の写真をスクリーンに映して見せる。 ・「大きい」だけではなく、何と比べて大きいとも言わせる。 ・各町のお祭りについてそれぞれの町の写真を見ながら聞かせる。 ・「～県～市～」に注意して聞かせる。 ・「～ 県 ～市～」と続けて言うようにする。 ・それぞれの県を日本地図で確認する。 ・自分が住んでいるところの地名も言えるようにする。 	<p>◇「祭り」を知っていますか。 はい、知っています。 (いいえ、知りません。)</p> <p>◆「祭り」で知っていることを言いましょう。</p> <p>◇今日は、色々な町のお祭りの勉強をします。</p> <p>◇これは何の写真でしょう。</p> <p>◆写真を見て気づいたことや思ったことを言いましょう。 大きな綱があります。 人より大きいです。</p> <p>◆今から教科書の文を読みます。 「～県 ～市～」という言葉が出て来ます。何回出てくるか数えながら聞きましょう。</p> <p>◆「～県 ～市～」が何回出て来ましたか。</p> <p>◆「～県 ～市～」というのは町の名前です。 それを「地名」と言います。</p> <p>◆3つの地名を言いましょう。</p> <p>◇あなたが住んでいるところの地名は何ですか。</p> <p>◇次の時間は、3つの町の「つな引きのお祭り」はどんなお祭りかを読みましょう。</p>

3 成果

① 対象児童に対する成果

教科書に載っている写真のスライドを見ながら聞いたり考えたりすることで、文字だけでは意味のわからなかった言葉の意味をつかむことができた。また、今までは自分で読もうとしなかった長文を意欲的に読み進めることができた。

4 課題

- 多くの語彙の中からどれを取捨選択するかが難しかった。児童の日本語の力に合わせて「いつ」「どこ」「だれ」「どのように」つな引きをするのかに焦点を絞って学習したが、詳しい内容についても日本語の力に合わせて学習を広げていかなければならない。

NO 6	小学校3年・算数科・かさ
------	--------------

1 学習活動の実際

(1)学習指導要領での指導学年と領域 第3学年（量と測定）	
(2)単元名または活動名 「かさ」	
(3)対象児童の実態（2人）	
A 児	<p>第3学年 国籍（フィリピン）母語（フィリピノ語）在籍年数（2年9ヶ月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 父親の国籍は日本、母親の国籍はフィリピン。3歳までフィリピンで過ごし、幼稚園入園より日本で、母親方の祖母と過ごす。4歳まで発語がなく、当初はフィリピノ語が中心の生活を送る。父親は単身赴任をしており、家庭での言語環境が、母親の不十分な日本語、祖母のフィリピン語であった。現在では、日常会話はほぼ理解できている。母語は書くことがほとんどできない。そのため、本児にとって最も得意な言語は不十分な日本語になりつつある。漢字については、まだ不十分であるが、既習学年の漢字については約60%程度書くことができるようになってきた。 学習活動に対して前向きに取り組みにくい。2年時には、学習活動に興味を持たないと、席から離れ教室を徘徊することも見られた。
B 児	<p>第3学年 国籍（オーストラリア）母語（英語）在籍年数（2年9ヶ月）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語での日常会話はほぼ理解できており、漢字についても当該学年の文字については理解できている。 言い回しなどにも慣れて、教科書を読み取り、その内容の大意をつかむことができるが、新しい事柄の理解には時間がかかる。
(4)目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 普遍単位(ℓ、dℓ、mℓ)を理解し、身の回りの容積表示を進んで見つけ、適切な大きさのますを使ってかさの測定ができる。 ・ かさの普遍単位の必要性について考えることができる。 ・ かさを「ℓ」「dℓ」「mℓ」の単位で表したり、ますを使ってかさを測定することができる。 ・ ますの使い方や、かさの単位「ℓ」「dℓ」「mℓ」の読み方、書き方、相互関係がわかる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「かさ」という言葉の意味を理解する。 ・ 「どちらが・・・」という表現を理解し、使用することができる。 	

2 学習活動

指導者（日本語指導担当教員） 指導補助者（なし）			
全体の時間数（1時間） 「かさ」の導入時に行う。			
学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
① どちらに多く、水が入っているか考える。 ・同じペットボトルで量の異なる色水を比べる。 ・形の異なる容器で、どちらが多いか、考える。	取り出し	・同じペットボトルで量の異なる水を用意して、実際に触りながら考えさせる。 ・具体的操作を入れることで、体験的に学習させる。	◇ 「かさ」という言葉についての経験の有無を確認する。 AU A-3 ◆T：どちらが多く入っていますか？ ◆S：こちらのほうが多く入っています。
② 調べ方を考える。 ・2つの容器だけで比べる。 (直接比較)		・児童が考えつかない場合は、容器を並べて、教師が実際にやって見せる。	◇色水の入った容器と同じ大きさの空の容器を示し、比べ方を考えさせる。
・2つの容器より多く入る容器を使って比べる。 (間接比較)		・児童が考えつかない場合は、教師が実際にやって見せる。 「じょうご」の提示時には日本語名称も導入する。	◇色水の入った容器より、大きな容器とじょうごを示し、比べ方を考えさせる。
・2つの容器より小さい容器を使って、何ばい分あるかで比べる。 (任意単位による比較)		・児童が考えつかない場合は、教師が実際にやって見せる。	◇任意単位になる小さな容器を多数示し、比べ方を考えさせる。
③ 「かさ」という言葉の意味を覚える。		・「比べる」 ・「どちらが…」などについても言語を確認し、繰り返して聞かせ、発音させる。	◆ 「かさ」の説明を、ペットボトルの中に入れた絵の具で説明する。 ◆ 「水かさ」など「かさ」を使った言葉に注目させ、くりかえして言わせる。 AU F-6

3 成果

① 対象児童に対する成果

〈教科指導の成果〉

- 「かさ」という言葉について、A、Bともに聞いたこともなかった。具体的な作業を通じて、「かさ」という言葉の示すところを理解することができた。
- 普遍的単位である「 ℓ 」「 $d\ell$ 」「 $m\ell$ 」について、身近なものとして感じるできるようになり、本時以後の学習においても、積極的に学習に取り組むようになった。また、およその量を推測できるようになった。
- 本時以降の授業において「かさ」についての加減の計算ができるようになった。

〈日本語指導の成果〉

- 具体物などを提示し体験させることでより一層理解しやすくなった。
- 「かさ」という概念について、実際に目で見て、触って、言うてみることで、A,B児ともにより理解が深まった。

② その他

教室内に様々な容器を置くことで、「 ℓ 」「 $d\ell$ 」の理解が深まった。今後も、学習したことを日常生活の場で活かし、学習への意欲を高めていきたい。

4 課題

〈教科指導の課題〉

- 本時の学習を通じて、本児についても他のクラスの児童についても、体験を通して学ぶことの重要性が認識された。しかし、まだ体験活動を取り入れた学習が十分なされていない。より体験を重視した学習活動の構築が課題である。
- 体験活動を行う上で、在籍学級担任との連携が不可欠であり、各種活動を通じて連携を密にしていく必要がある。

〈日本語指導の課題〉

- 「かさ」等の日常生活の場面において、使用する頻度の少ない言葉についてはなかなか定着しないので、期間をあけて繰り返し指導することで定着を図りたい。
- また、逆に「かさ」という言葉について、1時間を使って学習する必要があるのかどうかは疑問である。生活及び学習言語としては必要性が薄いように感じる。

NO 7	<p>小学校3年・総合的な学習の時間・</p> <p>料理について調べよう</p>
------	---

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域

3 学年 総合的な学習の時間

(2) 活動名

料理についてしらべてみよう

(3) 対象児童の実態 1 人

	3 学年 国籍 エジプト 母語 アラビア語 在籍年数 2 年 10 か月
A 児	<p>日本語力に関する実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常会話は理解できている。また、学習言語についても、ほぼ理解できているが、おもわぬつまずきが見られることがある。母語は、簡単な文の読み書きができ、日常会話はできる。家庭では主に日本語を用いて会話していることがあり、本児は日本語が中心言語となっている。 ・ 生活の習慣文化が異なるために、配慮が必要な場面がある。(ラマダン、食事等) <p>学習参加の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習面においては、まじめに前向きに取り組むことができるが、新しい事柄に慣れるまでは少々時間がかかることがある。 ・ 家庭学習は丁寧に取り組むことができる。

(4) 活動設定の理由とねらい

活動設定のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・ 図工科で「料理人になった気持ちで」と題し、紙粘土で料理に似せた工作作品作った。それと関連させて、総合的な学習の時間ではインターネットを使い、料理のレシピを調べた。本児の母国の料理を調べて、クラスで紹介する活動を通して、本児のアイデンティティの確立を図る。 ・ インターネットを使用しての情報収集に慣れる。
日本語指導のねらい
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語表記のさまざまな情報のなかから必要なものを選ぶ。 ・ 本児児童の母国について調べ、クラスの仲間に発信する。

(5) 目標

活動目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ インターネットでの検索方法について知る。 ・ 自分の母国についての情報を、インターネットで調べることができる。 ・ 自分の生まれた国のことを誇りを持って語るができる。
日本語指導の目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 検索した情報から、必要な情報を取捨選択することができる。 ・ 調べた事柄をクラスみんなに発表することができる。

(6) 指導者

J S L 担当教員

(7) 学習活動 (全体の時間数 3時間 本時1/3)

子どもの活動	活動形態	有効だった支援 (◇学習活動への参加をうながす支援) (◆日本語の理解や表現をうながす支援)
① 自分たちの調べたいものを決め、コンピュータの検索ソフトを使用し調べる。	在籍学級での一斉指導。	◇ 「エジプト料理には、どのようなものがあるの？」と促す。A-1
② 検索してた情報の中から自分にとって必要なものを選び、ノートにまとめる。		◆ 「これはどんな料理なのかな?」「食べたことはあるの?」と経験を聞く中で、次の発表の文章作りへつなげる。 ◇ 「クラスみんなにも教えてあげてほしいな?」と次の時間のプリント作成と発表との流れを伝える。

(8) 教具・教材

ノート

(9) ワークシート

料理調べ (別紙参照)

2 成果

活動設定から見た成果

- ・ 食事、料理は生活の基本的なものであり、文化や生活習慣の違いが色濃く現れる。本時の授業を通して、本児の母国について考えられたことは、本児にとってアイデンティティの確立の役に立った。本児にとって「エジプト料理」は大変身近のものであり、自身の知識も多く、「みんなに伝えたい。」という意欲が感じられた。
- ・ インターネットでの検索作業は、一人ひとりが別々に作業することになるので、本児に対応しやすく有効であった。

日本語指導から見た成果

- ・ 「この料理は〇〇といます。材料は…。」といったように個別の事象について、人前でくわしく説明をする経験をした。

3 課題

活動設定から見た課題

- ・ インターネットを使って検索したエジプト料理のレシピは、多くなかった。準備として、より多くの情報を探しておき、サーバーにファイルしておく必要がある。
- ・ 生活習慣については、よりきめ細やかな指導が必要であり、本児のように探しにくいものについては、指導者の配慮が大切である。

NO 8	小学校4年・算数科・面積
------	--------------

1 学習活動の実際

(1)学習指導要領での指導学年と領域 第4学年 (量と測定)	
(2)単元名または活動名 「面積」	
(3)対象児童の実態 (1人)	
A 児	<p>第4学年 国籍(中国) 母語(中国語) 在籍年数(4年)</p> <p>〈日本語の力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができ、具体的な指示も理解できる。 <p>〈在籍学級での学習参加の様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語による授業はほぼ理解できている。さらに、既習の学習内容も概ね理解できている。しかし、課題に集中したり粘り強く取り組んだりすることは苦手であり、学習してことが定着したとは言えない学習内容も多い。 「面積」は1年時に「ひろさくらべ」で学習しているが、いわゆる「単位量あたり」の考え方については理解していない。 <p>〈学習環境等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題は必ず行い、提出するという学習習慣は定着している。
(4)目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・面積の概念がわかり、公式の意味がわかる。 ・大きな面積や複合面積を求めることができる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・「ひろさ」をくらべ、どちらが広いか表現できるようになる。 ・「たて1センチメートル、よこ1センチメートルの広さを1平方センチメートルと言います」と面積を求める公式を正確に表現できる。 ・「長方形の面積は「たて×よこ」で求めることができます」と面積の求め方をはっきり表現できる。 	

2 学習活動

指導者（学級担任）、指導補助者（日本語指導担当教員）			
全体の時間数（10時間）			
学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
①ワークシートにより面積の意味を、試行錯誤しながら理解する。	在籍学級 同室複数 指導	○1 c m ² あたりの量を視覚化させるために、補助線を用いて思考の支援とする。	◇A-4 経験を確認する① T「1年で『ひろさくらべ』をしましたね。」 ◇H-5 条件的に考える⑤ T「どうすれば、広さを比べることができますか。」 ◆K-5 分かったことを表現する① T「どんなことがわかりましたか」
②～⑤教科書の問題を解くことで、面積の求め方を理解する。	在籍学級 同室複数 指導		◇時間をかけて丁寧に取り組ませる
⑥～⑦教科書の問題を解くことで、大きな面積を理解する。 ・大きな面積の単位「m ² 」「k m ² 」	在籍学級 同室複数 指導		◇新聞紙を用いて、1 m ² の正方形を作成し、実体験させる。 ◆F-6 命名する① T「言葉を声に出して、覚えましょう。」
⑧～⑨ワークシートを用いて、複合面積の求め方を理解する。	在籍学級 同室複数 指導	○1 c m ² あたりの量を認識させるために、補助線を用いて思考の支援とする。	◇H-4 条件的に考える④ T「どうすれば、広さがわかりますか。」
⑩教科書「たし	在籍学級		

かめ道場」を解くことでまとめとする。	同室複数指導		◆K-5 わかったことを表現する ① T「面積の学習で、わかったことを発表して下さい。」
--------------------	--------	--	--

3 成果

① 対象児童に対する成果

本単元では 1 cm^2 という『普遍単位』が「いくつつ」という表し方で面積の概念を説明した。児童は、試行錯誤する中で「マス目（ 1 cm^2 と言う『普遍単位』）を数えればいい。」と理解でき、そのことが「面積の求め方」の学習につながり、自然な思考過程を経て、「面積」を理解できた。

また、実際に新聞紙で 1 m^2 の正方形を作って大きさを実感できた。

複合面積では、前時までの学習経験・学習成果により、「面積のいろいろな求め方」についての理解も深まった。補助線の使用は効果的であった。

面積の求め方を何回も繰り返し表現することで、日本語表現も正確にできるようになった。練習問題においても、自然に公式を表記していた。

② その他（他の在籍学級の児童や学校・保護者等学習環境に対する波及効果等）

対象児童が自信を持って学習に取り組むようになり、授業終了後も、対象児童と周りの児童が一緒になって練習問題を解く等、対象児童と周りの児童との関係が深まった。

4 課題

○ 高学年になるにしたがって、学習内容が「具体物・具体化」→「抽象概念・抽象化」へと変化するので、学習方法においても様々な工夫が求められる。

具体物を用いて取り組める学習内容なら良いが、必ずしも具体物で補える学習内容ばかりではなくなってくるのが現実である。そのため、児童にわかりやすくするための教材・教具の開発や指導法の工夫が求められている。

NO 9

小学校5年・総合的な学習の時間・自分史を書き記そう

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域

5 学年 総合的な学習の時間

(2) 単元名

自分史を書き記そう

(3) 対象児童の実態 1人

	5 学年 国籍 ブラジル 母語 ポルトガル 在籍年数 2 年 3 か月
A 児	<p>日本語指導に関する実態</p> <ul style="list-style-type: none"> 本児は、以前より日本にはいたが、長く学校へ通っておらず、3年生から本校へ通い始めたころは、まったく日本語が理解できていなかった。現在では、日常会話はほぼ聞き取ることにはできるようになったが、細かな助詞の使い方で間違えることも多く、1、2年の漢字は習得できていない。 家庭ではポルトガル語のみで生活しているためか日本語の定着が難しい。 <p>学習参加の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年時、4年時の既習事項は、学習当時の本児の日本語力のために定着していない事柄が多い。 在籍学級児童に打ち解け、学校生活を楽しむことができる。

(4) 単元設定のねらい

単元設定のねらい

- 自分の歴史を振り返り、記録するという題材を取り上げることで、日本語で文章を書くことへのモチベーションを高め、苦手な漢字、書き取りを進んで取り組ませたい。

日本語指導のねらい

- 本児にとって、自分が今まで歩んできた道を振り返ることは、これからの自分の進むべき道を考える上で、重要な事柄である。その中で作文指導を通じて、漢字学習を進めていく。
- 漢字学習は、使用する必然性を生み出すことが重要であり、作文を書き連ねる方法を学ばせたい。

(5) 目標

国語教科の目標

- 作文のルールに従い、用紙に書くことができる。

日本語指導の目標

- 今までの自分の生活暦を振り返ることができる。
- 日本語を用いて、それを話すことができる。
- 日本語で書くことができる。

(6) 指導者

(7) 学習活動 (全体の時間数 1時間)

子どもの活動	活動形態	有効だった支援 (◇学習活動への参加をうながす支援) (◆日本語の理解や表現をうながす支援)
① 自分の生育暦を振り返る。 ② 作文として、用紙に書く。 ③適宜、作文のルールを指導する。	在籍学級での授業にリンクして行う。	◇ 現在から少しずつ過去に向かって、話をするなかで思い起こしをさせる。 ◆ 「何歳のときに日本にきたの。」 ◇ 漢字を必要に応じて、適宜説明する。

(8) 教具・教材

なし

(9) ワークシート

なし

2 成果

国語教科としての成果

- 作文のルールを知り、ルールに従い書くことができた。

日本語指導としての成果

- 自分自身の今までを振り返ることで、これからの自分について考えることができた。
- 漢字についても嫌がらずに取り組むことができた。
- 本人にとって、作文は特に苦手なものであったが、自信を持って取り組み、その中で、日記にも積極的に取り組めるようになった。
- 日記を書くことにより、漢字やひらがなを書く必要性が生じ、また、助詞などにも注意して取り組むことができた。

3 課題

国語教科としての課題

- 本児にとって、作文は最も苦手とする事柄であり、まだまだ指導がなければ、十分に書くことはできていない。今後も、折につけ作文指導を入れていきたい。

日本語指導としての課題

- 「は」「が」などの助詞の使用に混乱が感じられる場面がある。随時本児と、学級担任、J S L担当、日本語指導員との間で連携して指導を行いたい。

NO 10	小学校5年・算数科・くらべ方を考えよう「割合」
-------	-------------------------

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域

5 学年 算数 (D 数量関係)

(2) 単元名

くらべ方を考えよう 「割合」

(3) 対象児童の実態 1人

A 児	<p>5 学年 国籍 ベトナム 母語 ベトナム語 在籍年数 5年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語の力 日常会話はほぼできる。具体的な語彙は理解できるが、抽象的な概念は理解しにくい。 ・ 在籍学級での学習参加の様子 算数科に対する苦手意識が強く、計算の力が定着していないため、在籍学級の授業の進捗にはついていきにくい。 ・ 学習環境等 家庭では日本語も母国語も使って会話している。保護者も算数が苦手という意識があり、家庭での算数科の学習はあまり進んでいない。
--------	--

(4) 単元設定の理由とねらい

<p>「割合」は日常の生活の中でよく使われるが、A児にとっては聞き覚えのない言葉である。日本語の新聞を購読していないので、店の売り出しの広告を見たことはほとんどない。今後日本で生活する上で必ず目にする「割引」「～%OFF」などの言葉を知り、理解できることは大切なことである。この単元では、「くらべる量」「もとにする量」「割合」「百分率」「%」「割・分・厘」などの算数用語を習得し、日常生活に役立てることができることを目標とする。</p>
--

(5) 目標

<p>○算数科の目標 百分率の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。 目的に応じて資料を分類整理し、それを円グラフ、帯グラフを用いて表すことができるようにする。 「くらべる量」「もとにする量」「割合」「百分率」「%」「割・分・厘」などの用語を理解し、使えるようになる。</p> <p>○日本語指導の目標 「くらべる量」「もとになる量」「割合」「百分率」「%」「割・分・厘」などの算数用語を理解し、日常生活でつかえるようにする。</p>

(6) 指導者

日本語指導担当教員

(7) 学習活動 (全体の時間数 11時間 本時・・・1時間目)

子どもの活動	活動形態	有効だった支援 (◇学習活動への参加をうながす支援) (◆日本語の理解や表現をうながす支援)
①身のまわりにある「割合」を考える。	取り出し	◇「%」という記号を見たことがありますか。 A-4 ◆どこで見ましたか。 ◆何に書いてありましたか。
②くらべ方を考える。		◇くらべ方を考えましょう。 ◆定員 (決められた人数) とくらべて希望者 (入りたい人) の多いのはどの教室でしょう。
③「割合」の定義を知る。		◆ある量をもとにして、くらべる量がもとにする量の何倍にあたるかを表した数を割合といいます。 F-6
④「割合」を求め式を考える。		◇図を書いて考えてみましょう。 ◆割合 = $\frac{\text{くらべる量}}{\text{もとにする量}}$ の計算式で求めることができます。
⑤練習問題をする。		

(8) 教材・教具

店の売り出しの広告 %の表示があるジュースのペットボトルや缶

(9) ワークシート

後に添付

2 成果

① 対象児童
「○割引」「○%」が、割合を表すことを知り、学習意欲を持つことができた。「もとにする量」「くらべる量」「割合」の関係図を書いて、それぞれを求めることができるようになった。広告を見て、定価を考えたり、何円得したのかを考えたりするなど、生活と結びつけて学習に取り組むことができた。苦手意識の強い算数の学習だが、実生活に役立つとわかったことが大きな成果だった。

3 課題

○日本語の新聞や広告を目にする事の少ないA児にとっては、学校で学習した語彙が家庭生活や社会生活とつながりにくい。授業を通して、社会にも目を向けさせることが課題である。また、生活と直接結びつくものが多い知識や用語は、その都度A児に具体的に伝えて関心や意欲を高めることも今後の大きな課題である。

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域

5学年 総合的な学習の時間

(2) 活動名

自然学校

(3) 対象児童の実態 1人

	5学年 国籍 ブラジル 母語 ポルトガル 在籍年数 2年2か月
A 児	<p>日本語指導に関する実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本児は、以前より日本にいたが、長く学校へ通っておらず、3年生から本校へ通い始めたころは、まったく日本語が理解できていなかった。現在では、日常会話はほぼ聞き取れることができるようになったが、細かな助詞の使い方間違えることも多く、1、2年の漢字は習得できていない。 ・ 家庭ではポルトガル語のみで生活しているためか日本語の定着が難しい。 <p>学習参加の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年時、4年時の既習事項は、学習当時の本児の日本語力のために定着していない事柄が多い。 ・ 在籍学級児童に打ち解け、学校生活を楽しむことができている。

(4) 活動設定の理由とねらい

活動設定の理由

- ・ 5泊6日で校外で野外活動等を行う自然学校は他の児童にとっても、楽しみと不安とが混ざり合った部分のある行事である。特に本児にとっては、普段とは大きく違う生活のため不安となる部分も多い。そこで、自然学校のしおりをより具体的に学ぶことにより、自然学校の目的をつかみ、そこで行われる行事をよく知ることで自然学校の内容を理解し、目的にあった行動ができるようになることで不安な部分を解消していきたい。

日本語指導のねらい

- ・ しおりに書かれた言葉の意味を学習することで、学校生活で学習しにくい生活言語を含んだ日本語の学習を行いたい。また、目的意識を持って自然学校に取り組むことができるようにしたい。

(5) 目標

総合的な学習の時間の目標

- ・ 自然学校のねらいを理解する。
- ・ 自然学校の行事の中身について知る。(どの時間で何をし、何が必要か。)
- ・ 持ち物、集合時間などが確認できる。

日本語指導のねらい

- ・ 日本語のしおりの内容を理解し、そこに書かれている事柄を日本語で表現する。

(6) 指導者

J S L担当教員

(7) 学習活動 (全体の時間数 1時間)

子どもの活動	活動形態	有効だった支援 (◇学習活動への参加をうながす支援) (◆日本語の理解や表現をうながす支援)
① プログラムについて考える。 ② 個々のプログラムについて日本語の内容を理解する。 ③ 日本の生活習慣を確認する。 ④ 不安を感じることを話す。	在籍学級	◇ 自然学校でのプログラムのそれぞれについて、経験の有無を尋ねる。 ◆ 「○○」はなんでしょう？ ◇ 活動について、具体的に話すことで、活動の中身を理解させ、生活習慣の違いや、疑問点や不安を感じる事柄を聞き出す。 ◆ なにをやるかわかりましたか？ 「(私は) ○○時に○○をします。」

(8) 教具・教材

自然学校のしおり

(9) ワークシート

自然学校のしおり (ひらがなルビうち済み)

2 成果

総合的な学習の時間としての成果

① 持ち物、集合時間について詳しく知ることができた。それによって、自然学校に対しての不安を幾分か解消することができた。

② 経験の少ない行動にも自信を持って取り組む気持ちを持つことができた。

③ 本人にとって、苦手な行動、不安に思うこと(食事のメニュー、実際のプログラムの何分前に集まればいいのか、持ち物は何を準備すればいいのか等)をはっきりと確認することで、対処の仕方を学び取り、楽しみだと感じることができるようになった。

④ 本児にとって、学校生活で初めて経験することは、他の児童より不安が大きく感じられる。また、生活習慣の違いが、大きな不安の材料となっていたと感じられた。具体的な活動内容が理解されるにつれて、徐々に不安が解消され、前向きに取り組むことができるようになった。

例えば、毎食、日本食を食べることへの不安、お風呂を一緒に入ることへの不安など、細かな不安を解消することが、活動への不安を取り除いていくことにつながった。

日本語指導としての成果

① 「お風呂」、「就寝」など、学校生活の場ではなかなか使われない言葉を学んだ。

② 「私は○○時に○○をします。」という表現の仕方が学習できた。

3 課題

総合的な学習の時間としての課題

○ 体験学習など通常授業ではない新しい行事等を行う際には、不安を取り除くために、丁寧に活動内容を理解させることが重要であり、今後の行事に向けての課題として残った。

日本語指導としての課題

○ 生活言語は学校生活の中だけでは、学習が不十分であり、本児のように家庭で日本語を使用していない児童にとっては、学校で生活言語についても指導していく必要がある。

NO 1 2	小学校6年・算数科・単位量あたりの大きさ（速さ）
--------	--------------------------

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域

6 年	数 量 関 係
-----	---------

(2) 単元名

単位量あたりの大きさ（速 さ）

(3) 対象児童の実態 1人

	6年 国籍 中国 母語 中国語 在籍年数 6年
A	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 あいさつができて、具体的な指示もわかる。 ・在籍学級での学習参加の様子 日本語での授業は、大体理解出来ている。しかし、集中力が十分でないことがあり、学習したことが定着しているとは言えない部分がある。 これまでの学習内容の、面積の考え方や平均の意味は理解している。 しかし、「単位量あたりの大きさ」は理解しにくい領域であり、A児も「単位量あたりの大きさの『求め方』」においての技能は高くない。 ・学習環境 宿題を忘れずに行い、提出すると言う学習習慣が定着していない。

(4) 単元設定の理由とねらい

<p>本単元は、異なる2つの量の割合で表される量について、その比べ方、求め方、表し方、つまり「単位量あたり」の考え方を学ぶ単元である。</p> <p>「単位量あたり」は、日常生活の中ではよく用いられる考え方であるが、その概念や、比べ方、求め方が理解しにくい単元である。</p> <p>そのため、できるだけ具体的な事例を通して、「単位量あたり」の考え方を理解し、できる限り実際の生活場面で生かせるような力をつけたい。</p>

(5) 目標

- 速さの意味がわかり、簡単な計算ができる。
- 速さについてわかったことを、適切な日本語を用いて表現することができる。

(6) 指導者

日本語指導担当

(7) 学習活動 (全5時間)

学 習 活 動	形 態	有 効 だ っ た 支 援
①ワークシートにより、速さの意味を、試行錯誤することにより理解する。 ・適応問題を解くことで、まとめとする。	取り出し	◇A-4 経験を確認する① T「これまで『こみぐあい』を学びましたね。」 T「6月に、スポーツテストをしましたね。」 ◇H-5 条件的に考える⑤ T「どうすれば、速さを比べることができますか。」 ◇1あたり量を視覚化させるために、線分図を用いて思考の支援とする。
②教科書の問題を解くことで、速さの定義を理解する。 ・第1用法を理解する。	同室複数 在籍学級	◆K-5 わかったことを表現する① T「どんなことがわかりましたか。」 ◇例題の1問だけを、時間をかけてていねいに取り組ませる。
③教科書の問題を解くことで、道のりの定義を理解する。 ・第2用法について理解する。	同室複数 在籍学級	◆F-6 命名する① T「言葉を声に出して、覚えましょう。」 ◇この時間は、例題2問に取り組ませる。
④教科書の問題を解くことで、時間の定義を理解する。 ・第3用法について理解する。	同室複数 在籍学級	◇第1時より、線分図を用いて解かせることで、指導の一貫性を持たせたい。
⑤「たしかめ道場」をすることで、「速さ」の学習のまとめとする。	同室複数 在籍学級 取り出し	◇例題1問に絞り、線分図を活用しながら、取り組ませる。 ◆K-5 わかったことを表現する① T「速さの学習で、わかったことを説明して下さい。」

(8) 教材・教具

自作教材 及び 教科書 (啓林館)

(9) ワークシート

自作教材…コピーし、添付。

2 成果

①対象児童

『混み具合』『速さ』などの「単位量あたり」の考え方は、普段の児童の日常生活において、ごく自然に使われるものであり、将来の生活の中でも有効な考え方となる。そこで、できるだけ児童の興味・関心を持続させるために、場面設定を工夫し、数値を簡素化したことが、理解しにくい単元であるにもかかわらず、興味・関心を大きく損なうことなく維持し続けられ、大きな成果になった。

さらに、線分図を思考の手助けとしたことが、児童の理解の支援になったことも大きな成果であった。

3 課題

教材準備の時間的余裕があれば、全時間分のワークシートを作成すれば良かった。

導入での「速さ」の意味を理解させる段階で、線分図についての扱いをもう少ししていねいにすれば、第2時の「第1用法」の定義の理解がスムーズにできた。

NO 13	中等教育学校1年・国語科・ 物語文「オツベルと象」
-------	----------------------------------

1 学習活動の実際

(1)学習指導要領での指導学年と領域 第1学年（物語文）	
(2)単元名または活動名 「物語文『オツベルと象』」	
(3)対象生徒の実態（2人）	
A	第1学年 国籍（フィリピン）母語（フィリピン語）在籍年数（2か月） ・日常会話に大きな問題はない。誤りはあるものの、ある程度まとまりをもった文章を読んだり書いたりできる。未習得の漢字が多く語彙数も少ないため、長い文章の内容理解には時間がかかる。 ・取り出し授業。 ・自発的に家で漢字を書いて練習するなど、学習意欲は高いが、間違っ覚えていたこともある。両親はともにフィリピン人で、学習に協力的である。家庭では日本語、フィリピン語、英語の三つの言語を話している。
B	第1学年 国籍（フィリピン）母語（英語）在籍年数（2か月） ・簡単な日常会話に大きな問題はないが、知らない言葉や表現がまだ多く、身の回りの出来事等を詳しく説明する力はまだ不十分である。A生徒と同様、語彙と漢字の習得に課題があり、長い文章の内容理解には時間がかかる。 ・取り出し授業。 ・両親とも学習に対して協力的ではあるが、日本語話者ではない。家で漢字を正しく覚えて小テストに臨むなど、熱心に家庭学習に取り組んでいる。
(4)目標	
◇場面ごとにオツベルと白象の心の動きや考え方を読み取ることができる。	
◇オツベルにとって大切なもの、白象にとって大切なものは何かをとらえ、自分なりの考えをもつことができる。	
◆音読が正しくできる。	
◆漢字の読み方、新しい語句やその意味を理解し、重要なものについては短文を作ることができる。	

2 学習活動

指導者（日本語科担当）		指導補助者（なし）
全体の時間数		15時間
学習活動の状況、指導内容	活動方法	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
①前時の学習をふり返る ②第一日曜 白象がやってくる場面の内容をとらえる。 ③今回の学習をふり返る	取り出し	◇前時の学習を思い出させる。 ◆オツベルの仕事場はどんなところですか。 ◆百姓たちは仕事場で何をしていますか。オツベルは何をしていますか。 <進め方> 1. ◇生徒に音読させる。（1回目） 2. ◇新しい語句や表現の意味を確かめさせる。 ◆単語の用例は、学校での場面などを取り入れてできるだけ身近な内容のものにし、理解しやすいようにする。（※学習辞典に掲載されている用例ではわからないものが多い。） 3. ◇教師がゆっくりと範読する。 ◆生徒は意味を考えながら聞く。 4. ◇内容理解のためのQ&Aをする。 例) ◆～の気持ちがわかる場所はどこですか。 ◆この文からどんなことがわかりましたか。 ◆～のは、どうしてですか。 ～からです。 ◆～のとき、～はどんなことを考えていましたか。 ◆「・・・」とあります。〇〇さん、やってみてください。 5. ◇ワークシートを使い、内容を整理させる。 ◆語句が正しく使えているか、書き抜きしている箇所は適切か、確認する。 6. ◇生徒に音読させる。（2回目） ◆場面に合った読み方を工夫させる。 ◇今日の学習を終えて、わかったことや感想を発表させる。 ◆わかったことや感想が、他の人にうまく伝わるように話す。

3 成果

① 対象児童生徒に対する成果

- ・ルビ、注釈付きの本文プリントで音読練習をくり返すうちに、漢字の読み方はほぼ完全にできるようになり、本読みのなめらかさも増した。
- ・ワークシートに記入することで、話の展開が理解しやすくなった。また正しく書く練習にもなった。
- ・オツベルと白象の心の動きがわかる場所を見つけさせ、そこからわかったことや自分の思ったことを自由に発表させることで、白象とオツベルの心情の変化を読み取ることができた。
- ・「オツベルと象」での漢字学習は「読み」ができればよいとしたが、毎日の本読みであまり苦勞なく読めるようになったので、「書き」についても学習を進めることができた。

② その他（他の在籍学級の児童や学校・保護者等学習環境に対する波及効果）

- ・言葉の意味を知ることと、本文での使われ方を知るとは同一時間になるようにした。語句の意味調べが終わったからと言って、それが使われている本文の内容理解を次回に回すことがないように気をつけた。わからない言葉が多い外国人生徒にとっては、一つの大切な支援であると考えられる。

4 課題

○外国人生徒にとっては、学習辞典であっても単語の意味や用例が理解できないものが多く、わかりやすい日本語に言い換える必要がある。また、いくつか意味がある場合は、本文での使われ方はどれが適切なのか、確認していくことも大切である。

○新出単語の意味調べをすべて生徒にさせると、時間もかかり生徒の負担も大きい。今回ワークシートを用い、意味調べを

A：絵や写真、実物で理解させるもの

B：自分で辞書を引いて調べるもの

C：教師がワークシートに意味を載せておくもの

の三種類に分け、時間と負担を減らした。しかし、いずれは自分でわからない言葉を拾い上げ、辞書を引き、授業に臨まなければならない。自ら学習を進めていく力をどうやって身につけさせるかが今後の課題の一つである。

NO 14	中学校2年・数学科・合同な図形
-------	-----------------

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域

(2) 学年 (B 図形)

(2) 単元名 (教材名)

「 合同な図形 」 (東京書籍 新編新しい数学2)

(3) 対象生徒の実態 (5人)

A	(2) 学年 国籍 (フィリピン) 母語 (英語) 在籍年数 (2年4ヵ月)
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 日常会話は上手に出来る。漢字は中学1年まで習う読み書きが出来る。 ・在籍学級での学習参加の様子 (領域に関する知識・技能も含む。) 授業は積極的に参加している。図形についての基礎的な知識を持っており、簡単な論理的文章を理解することが出来るが、計算ミスがやや多い。
B	(2) 学年 国籍 (日本・パキスタン) 母語 (日本語) 在籍年数 (7年1ヵ月)
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 日常会話は上手に出来る。漢字は中学2年まで習う読み書きが出来る。 ・在籍学級での学習参加の様子 (領域に関する知識・技能も含む。) 授業は積極的に参加している。図形についての基礎的な知識を持っており、丁寧な解答を作成する素質があるが、計算力がやや低い。
C	(2) 学年 国籍 (中国) 母語 (中国語) 在籍年数 (2年7ヵ月)
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 日常会話はほぼ出来ている。漢字は中学1年まで習う読み書きが出来る。 ・在籍学級での学習参加の様子 (領域に関する知識・技能も含む。) 授業は積極的に参加している。図形についてのある程度の知識を持っており、計算力が高いが、文章を表現する時に書き間違いが起こることがある。
D	(2) 学年 国籍 (韓国) 母語 (韓国語) 在籍年数 (3年2ヵ月)
	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 日常会話はほぼ出来ている。漢字は小学6年まで習う読み書きが出来る。 ・在籍学級での学習参加の様子 (領域に関する知識・技能も含む。) 授業は積極的に参加している。図形についてのある程度の知識を持っており、計算力が高いが、文章を表現する時に書き間違いが起こることがある。
E	(2) 学年 国籍 (中国) 母語 (中国語) 在籍年数 (2年9ヵ月)

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の力 日常会話はほぼ出来ている。漢字は中学1年まで習う読み書きが出来る。 ・在籍学級での学習参加の様子（領域に関する知識・技能も含む。） 授業の理解は丁寧な繰り返し説明が必要。図形についての基礎的な知識を持っているが、計算を間違えることがある。
--	---

(4) 単元設定の理由とねらい

<ul style="list-style-type: none"> ○小学校での既知事項である図形の性質について体系的に整理する。 ○平行線の公理から図形の性質が論理的に導かれる過程を感じさせる。 ○合同の性質や合同条件を使って、より難しい図形の問題を取り組ませる。

(5) 目標 * 到達目標で記述する。 例 ～できる。

<ul style="list-style-type: none"> ○合同な三角形の性質を用いて、図形の性質を調べることが出来る。 ○証明の意義と方法を理解できるようにする。 ○三角形の合同条件を見だし、それを活用することができるようにする。

(6) 指導者

教科担任

(7) 学習活動（全体の時間数 5時間）

学習活動	活動形態	有効だった支援（◇学習活動への参加をうながす支援） （◆日本語の理解や表現をうながす支援）
①三角形の合同を説明する。 ②三角形の合同条件を板書する。 ③三角形の合同条件を読み上げる。 ④三角形の合同条件を復唱させる。 ⑤三角形の合同条件を使った問題を解かせる。 ⑥問題の答え合わせをする。 ⑦以上の作業が出来た生徒は問題集を解き、定着させる。	取り出し 少人数	◇復習を取り入れることで、授業への導入をスムーズにさせる。 ◇◆板書を書き写すことで、数学的文章を脳内の短期記憶に入れさせる。 ◇◆数学的文章を聞くことで文中の漢字の読み方や意味を理解させる。 ◇◆数学的文章を復唱することで文中の漢字の読み方や意味を理解させ、脳内の長期記憶に入れさせる。 ◇板書が遅い生徒はここで整理が出来る。 ◇机上巡回を行い、計算が進まない生徒を補助する。 ◇三角形の合同条件がきちんと書けているか、合同の表示が正しいかどうかを確認する。

(8) 教材・教具（実際に使用した教材のコピー・デジカメで記録した教具等も添付）

教科書 P.95～P.100・問題集（レポート） P.131～P.138

(9) ワークシート（使用する前の見本・生徒の作品等も添付）

なし

2 成果

① 対象生徒

何回も三角形の合同条件を言わせることで、試験でも正確に記述できるようになった。
能力の高い生徒はより難しい問題にも取り組めるようになった。

② 在籍学級生徒

取り出し授業のためなし。

③ 学習環境（学校、保護者等）

④ その他

この後続く、直角三角形の合同条件や平行四辺形の成立条件にも、同様な授業展開をしていきたい。

3 課題

○三角形の合同条件の授業から定期テストまで、1か月以上空いたので、試験で間違っていた生徒が一人いた。さらなる定着を図っていきたい。

○本体クラスの成績下位層の生徒についても、数学の言葉や意味が分かっていないという点では、同様の課題を持っている。したがって、取り出し授業で一緒に指導することが、有効ではないかと予想される。

1 学習活動の実際

(1)学習指導要領での指導学年と領域 第2学年（近現代の日本と世界）	
(2)単元名または活動名 「欧米諸国の衝撃と日本 ―倒幕運動と民衆の願い―」	
(3)対象生徒の実態（1人）	
	第2学年 国籍（中国）母語（中国語）在籍年数（10か月）
A	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の初級指導が終了し、日常会話はほぼできる。 読み書きに関しては、片仮名はまだ理解できていない。平仮名も一部理解できていない。 在籍学級での社会科の授業は、半分程度理解できている。 家庭では日本語話者がいないため、宿題等で日本語学習を進めることが困難な状況にある。母国での学習習慣が身に付いていない影響か、学習がなかなか定着しない。教科書に出てくる頻度の高い熟語がなかなか覚えられないなど、日本語の力の伸びが低い。
(4)目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> この章では、開国で日本が世界に組み込まれたこと、日本「近代」の起点になったことを捉えることができる。 攘夷に失敗した長州藩と薩摩藩が、攘夷から倒幕へと変わっていくことを理解できる。 倒幕運動への幕府の対応（大政奉還）と、さらなる倒幕派の動き（王政復古の大号令）、新政府と旧幕府との戦争（戊辰戦争）という一連の大きな流れを理解できる。 江戸幕府の終わりが、武家政治の終焉であることを理解できる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> 教科書中の読めない漢字を読むことができる。 歴史上の人物名を読むことができる。（書句ことができる。） 歴史用語が読めて、内容もわかる。 旧地名の場所が今のどこかがわかる。 江戸時代が終わり、新しい時代になることがわかる。 	

2 学習活動

指導者（教科担任），指導補助者（なし）		
全体の時間数（1時間）		
学習活動の状況 指導内容	活動 方法	支援方法 （◇学習活動への参加をうながす支援） （◆日本語の理解や表現をうながす支援）
① 【復習】江戸時代の終末を学んでいることをつかむ。	取り出し	◆発問「今、何時代を学習しているか。」 ◇教科書の年表で江戸時代を確認し、次に薩英戦争と下関事件を年表からさがさせる。
② 【復習】下関事件と薩英戦争の内容をおさえる。 《年表でさがす》 《地図でさがす》 《発問に答える》		◇地図（P145 上）で事件の起きた場所をおさえさせる。 ◇（地図上で）薩摩と長州が今の何県にあたるかを発問し、その後地図帳で調べさせる。 ◇教科書の写真（P144 上）を見て、事件の内容を思い出させる。
③ 薩摩・長州が攘夷から倒幕に動くところをおさえる。 《教科書音読→語句理解→内容理解》		◆教科書（P144 の 13～16 行）を音読する。読めない漢字にはふりがなを書かせる。 ◇内容を易しい日本語で解説し、理解させる。 ◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。 ◆ワークシートの前半部分を書かせる。
④ 江戸幕府滅亡の過程をつかむ。 《教科書音読→語句理解→内容理解》		◆教科書（P144 の 17 行～P145 の 3 行）を音読させる。読めない漢字にはふりがなを書かせる。 ◇内容を易しい日本語で解説し、理解させる。 ◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。
⑤ 新しい政府が生まれる過程をつかむ。 《教科書音読→語句理解→内容理解》		◆教科書（P145 の 4～6 行）を音読させる。読めない漢字にはふりがなを書かせる。 ◇内容を易しい日本語で解説し、理解させる。 ◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。
⑥ 旧幕府と新政府との戦いがあったことをつかむ。 《教科書音読→語句理解→内容理解》 《重要語句記述》		◆教科書（P145 の 7～11 行）を音読させる。読めない漢字にはふりがなを書かせる。 ◇内容を易しい日本語で解説し、理解させる。 ◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。 ◆ワークシートの後半部分を書かせる。 ◆（発展）フラッシュカードで今日の重要語句の読みを練習させる。

3 成果

① 対象生徒

- ・ 重要な歴史用語や人名を読むことができた。ただし、定着のためには今後何回も練習が必要である。
- ・ 江戸幕府が滅び、新時代が始まる内容をほぼ理解できた。
- ・ 旧地名（薩摩、長州、土佐、江戸）が今のどこにあたるかが理解できた。

② 有効だった指導方法

- ・ なるべく易しい表現に変えること、ていねいにゆっくり話すこと、短文を活用することが大原則である。「易しく話す」→「理解させる」→「書くことで定着させる」という流れをつくるのが有効である。
- ・ フラッシュカードを使った指導は、重要語句を繰り返し音読読練させられるので有効である。また、人物のカードについては、新政府のメンバーをグループで整理する等にも活用できる。さらに、生徒に注目させる上でも大切な教材である。
- ・ 発問に口頭で答えさせる活動は、日本語表現をつかむために必要であり、有効でもある。
- ・ 忘れていた訓読みを思い出させる一つの方法として、拍数を図示することで、目で見せて考えさせるという点で有効である。

例) 動く 行う
 ○○ ○○○

- ・ 年表で時代を確認する作業は、歴史学習において絶えず必要な作業である。目で見ても時代を確かめることができている。

4 課題

- 外国人生徒への教科指導は、「当該学年の教科書が読めるように」が前提となる。例えば漢字が読めないからといって、小学校低学年のものを使うことは避けたほうがよい。多少音読が難しくても進めるべきである。外国人生徒も、教室にいる生徒と同じことがしたいと思っており、そのことが生徒の意欲にもつながる。指導する教師は、易しい表現への読み替え、ゆっくり話すことや明確な発音を身につけるべきである。
- 外国人生徒への教科指導を進める場合、内容の精選は欠かせない。それにより、大事なことだけを整理して伝えなければならない。社会科であるなら教科書の太字語句を中心に、指導内容を組み立てることである。そのことがJSLカリキュラム社会科の根幹になると考える。
- ワークシートを作成する際に、教科書の太字の語句は書かせるようにしたい。フラッシュカードと合わせるように作ることができればさらに効果的である。
- 教科書や資料集に出ている写真・図・グラフ・表などを読み取る練習はすべきである。外国人生徒が苦手になっている学習であるが、今の社会科学習に欠かせない技能であり、教師がうまく発問することで読み取る能力をつけさせることができる。
- 学習内容の定着をはかるためには、繰り返し何度も練習することが基本となる。この時間に学習した重要なことや読めなかった漢字等は、次の時間やその次の時間にも練習させな

ければならない。漢字の読みなどについては、他教科とも連携することができればさらに効果的である。

- 教科書の読めない漢字の指導は、思い出せそうなら、少し待ってもよいが、困難なものやひらがなの間違い等は直ぐに教え込んだ方がよい。教えて、繰り返して練習することが理解と定着に有効である。
- 外国人生徒にとって濁音と清音を聞き分けが難しい。濁音や半濁音の書き間違いも、考えさせるまでもなく直ぐに訂正させ、濁音のある語句の一つとして憶えこませる方が有効である。

NO 16	<p>中学校2年・社会科・</p> <p>アジアの日本から世界の日本へ</p>
-------	---

1 学習活動の実際

(1)学習指導要領での指導学年と領域 第2学年（近現代の日本と世界）	
(2)単元名または活動名 「アジアの日本から世界の日本へ ―朝鮮の支配を争った日清戦争―」	
(3)対象生徒の実態（1人）	
A	<p>第2学年 国籍（中国）母語（中国語）在籍年数（1年2か月）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語の初級指導が終了し、日常会話はほぼできる。 ・ 読み書きに関しては、片仮名はまだ理解できていない。平仮名も一部理解できていない。 ・ 在籍学級での社会科の授業は、半分程度理解できている。 ・ 家庭では日本語話者がいないため、宿題等で日本語学習を進めることが困難な状況にある。学習習慣が身に付いていない影響か、学習がなかなか定着しない。教科書に出てくる頻度の高い熟語がなかなか覚えられないなど、日本語の力の伸びが低い。
(4)目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日清・日露戦争を通じて日本の国際的地位が向上したが、日本の東アジアでの帝国主義の動きも活発化したことを捉えることができる。 ・ 帝国主義とはどのような動きかを理解できる。 ・ 日清戦争の原因と結果を、朝鮮の支配という観点から捉えることができる。 ・ 下関条約の内容を理解できる。 	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の読めない漢字を読むことができる。 ・ 歴史用語が日本語で読むことができる。（書くことができる。） ・ 提示した絵とともに日清戦争の内容がわかる。 ・ 日本と中国の歴史観の違いに気付く。 	

2 学習活動

指導者（教科担任），指導補助者（なし）		
全体の時間数（1時間）		
学習活動の状況 指導内容	活動 方法	有効だった指導等（◇学習活動への参加をうながす支援） （◆日本語の理解や表現をうながす支援）
① 【復習】 いままで どの時代のことを 学習していたかを つかむ。 《年表や資料で確認す る》	取り 出し	◇発問「どの時代を学習していたか覚えていますか。」 ◇教科書の年表で明治時代を示し，どこを学習していたか を確認させる。（大日本帝国憲法ができ，帝国議会が開か れた辺りを押さえさせる。） ◇教科書（P166～167 上）の絵を見せて，確認させる。
② 【本時の要点】 今 日は日清戦争につ いて学ぶことをつ かむ。		◆フラッシュカードで字を確認させ，声に出して読ませる。 ◇発問「中国の学校で習いましたか。」黒板に『甲午戦争』 （日清戦争の中国語）と書き，習ったかどうか確認させ る。 （◇もし習っていたら，その内容を発表させる。） ◇なぜ，戦争が起きたのかを考えさせる。
③ 帝国主義とはどの ような動きかをつ かむ。 《教科書音読→語句理 解→内容理解》		◆教科書（P. 170 の1～7行）を音読させる。読めない漢字 にはふりがなを書かせる。 ◇内容を易しい日本語で解説し，理解させる。
④ 日清戦争が起きた 過程をつかむ。 《教科書音読→語句理 解→内容理解》		◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させ，ワーク シートに書かせる。 ◇朝鮮での内戦（甲午農民戦争）を簡単に説明し，理解さ せる。 ◆教科書（P. 171 の1～8行）を音読する。読めない漢字に はふりがなを書かせる。 ◇内容を易しい日本語で解説し，理解させる。
⑤ 戦争の結果どのよ うなことになった かをつかむ。 《教科書音読→語句理 解→内容理解》 《重要語句記述》		◆重要語句の読みのフラッシュカードで練習させる。 ◆教科書（P. 171 の9～13行）を音読させる。読めない漢 字にはふりがなを書かせる。 ◇内容を易しい日本語で解説し，理解させる。 （特に下関条約の内容を整理して伝え，わからせる。） ◆重要語句の読みをフラッシュカードで練習させる。
⑥ 【本時の復習】。		◆ワークシートの後半部分を書かせる。 ◆（発展）フラッシュカードで今日の重要語句の読みを練 習させる。

3 成果

① 対象生徒

- ・重要な歴史用語を読むことはある程度できた。ただし、定着のためには今後何回も練習が必要である。
- ・「帝国主義」の意味、「日清戦争」の経緯、「下関条約」の内容については理解できた。次の授業時に再点検したが、ほぼ理解できていることが確認できた。

② 有効だった指導方法

- ・なるべく易しい表現に変えること、ていねいにゆっくり話すこと、短文を活用することが大原則であることが今回も確認できた。
- ・フラッシュカードを使った指導は、重要語句を繰り返し音読練習することができるので有効である。地名の登場するものには地図を添付、重要な歴史用語には年号を書き添えた。
- ・発問に口頭で答えさせる活動は、日本語表現をつかませるために有効であり、必要でもあることが確認できた。
- ・年表で時代を確認する作業は、目で見えて時代を確かめることができ有効であることが確認できた。何度も見させることで年表の見方が早くなり、慣れてきていると感じられた。歴史学習において、年表の活用は必要かつ有効な作業であることがわかった。

4 課題

- ワークシートを今回は在籍学級のものとは違う独自のものを使用した。J S Lの授業に合わせて作ったので、使いやすく授業は進めやすかった。しかし、在籍学級と同じことを勉強させないと、在籍学級に戻った時に生徒が戸惑うことにもなる。両方のワークシートをさせることが一番いいと思うが、時間的に厳しい場合も多い。独自のワークシート使用は一長一短あり、その生徒の日本語レベルにより、今後使い分けが必要である。
- ワークシートに出てくるキーワードを何度も読み間違えたこともあり、ワークシートに読みがなを書かせるように指導していく必要がある。
- キーワードを暗記させるだけでなく、その語句を日本語で説明できるように再生させることも必要である。そのためには、語句だけを覚えさせるのではなく、文に彩色して言わせて覚えさせることが有効ではないかと参観者から指摘を受けた。確かに、わからせる段階から、表現できる段階へ進めるような授業の展開が大きな課題である。
- 「易しく話す」→「理解させる」→「書くことで定着させる」という流れをつくるのが有効な指導ではあるが、さらに、易しい言葉で理解させるだけでなく、教科書の表現に戻すことが重要になる。それができていないと内容理解ができていても試験では良い結果につながらない。
- 今回の単元は生徒にとって難解な文字が多かったので、教科書の音読指導を迷いながら実施した。しかし、自分で音声化し聞き取ることは、在籍学級での教師の話を理解する上で助けになるとの指摘を日本語教師から受けた。

NO 17

中等教育学校2年・理科・電流

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域

(2) 学年 (科学1分野上 電流)

(2) 単元名 (教材名)

「電流」(静電気と電流)

(3) 対象生徒の実態 (5 人) * 対象となる生徒ごとに記入すること。

A	(2) 学年 国籍 (中国) 母語 (中国語) 在籍年数 (1年8ヶ月)
	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の力：中級移行レベル 在籍学級での学習参加の様子：積極性にやや欠けるため語彙の理解は遅い。授業の雰囲気にしたがって、自ら質問することが多くなった。ノートは丁寧にとっている。 学習環境：学習意欲はかなり高まってきている。
B	(2) 学年 国籍 (中国) 母語 (中国語) 在籍年数 (1年8ヶ月)
	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の力：中級移行レベル 在籍学級での学習参加の様子：明るくお喋り好きであるため、質問等も多く積極的に取り組んでいる。質問の内容も深まってきたが一度覚えたことをすぐ忘れてしまうことも多く、繰り返し復習することが必要である。 学習環境：学習意欲は高いが物事を正確に理解する力はまだ不十分である。
C	(2) 学年 国籍 (パキスタン) 母語 (英語) 在籍年数 (1年8ヶ月)
	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の力：上級レベル 在籍学級での学習参加の様子：意欲的に取り組むようになってきた。理科用語の理解は難しい。 学習環境：覚えた用語の定着に時間がかかる。
D	(2) 学年 国籍 (韓国) 母語 (韓国語) 在籍年数 (1年8ヶ月)
	<ul style="list-style-type: none"> 日本語の力：上級レベル 在籍学級での学習参加の様子：積極的に取り組む。理学的内容について興味・関心が高く熱心に質問してくる。この影響で授業中、他の生徒からの質問も多い。 学習環境：復習をきっちり行って理解しようとしている。

(4) 単元設定の理由とねらい

異なる物質どうしをこすり合わせると静電気がおこり、帯電した物体間では空間を隔てて力が働くこと、および静電気と電流は関係があることを見出す。

(5) 目標 * 到達目標で記述する。

- 静電気やその働きに興味関心を持ち、積極的に実験を行い静電気を帯びた物体どうしに働く力について説明できるようにする。
- 放電について説明できる。

(6) 指導者 (教科担任、学級担任、外国人指導コーディネーター、外部指導員、等)

教科担当、通訳担当教員

(7) 学習活動 (全体の時間数 2/22 時間)

学習活動	活動形態	有効だった支援 (◇学習活動への参加をうながす支援) (◆日本語の理解や表現をうながす支援)
① 身の回りの物体について静電気の起こす現象について発表させる。 ② 簡単な装置を使って静電気の実験を行う。	取り出し	◇ 日常生活における静電気の発生を意識させる。ストローやエボナイトを使った簡単な静電気発生装置により静電気の発生を確認させる。 ◆ 教師が実験を行って静電気を発生させる。その後生徒に実験をさせて静電気発生を確認させる。 ◆ 実験で発生した静電気について板書により用語の定着をはかる。 ◆ 教科書を声をだして読ませる。読めない漢字はルビを振る。 ◆ 必要に応じて電子辞書で母語の確認も行う。

(8) 教材・教具 (実際に使用した教材のコピー・デジカメで記録した教具等も添付)

静電気発生装置

(9) ワークシート (使用する前の見本・生徒の作品等も添付)

特になし

2 成果

- ① 対象生徒 導入時前に翻訳教師による理科学用語の母語訳のプリントによる指導をおこなない理科学用語の理解がなされているので比較的容易に学習内容に入っていける。授業時には、実験装置を使って静電気の発生を体感できるので積極的に疑問点を質問してくる。

3 課題

- 取り出しクラス (少人数) で実施しているため、各生徒の質問に答えられる時間を設定できるが、本体クラスで実施する場合は各対象生徒に個別時間をとることは困難である。

(3) 日本語指導リーダー養成研修会の事例一覧

〈小学校・低学年〉

NO	学 年	教 科	単 元 名
1	1 年	算 数	たしざん(2)
2	2 年	国 語	こんなお話を考えた
3	2 年	算 数	たし算のひっさん
4	2 年	生 活	もっと まちを しりたいね

〈小学校・中学年〉

NO	学 年	教 科	単 元 名
5	3 年	社 会	昔のくらし、見つけた
6	3 年	算 数	か さ
7	4 年	国 語	一つの花
8	4 年	理 科	もののあたたまり方

〈小学校・高学年〉

NO	学 年	教 科	単 元 名
9	5 年	国 語	漢字であそぼう
10	6 年	社 会	明 治 維 新
11	6 年	算 数	体 積
12	6 年	理 科	ものの燃え方

〈中学校・中等教育学校（前期課程）〉

NO	学 年	教 科	単 元 名
13	1 年	英 語	現在進行形
14	3 年	国 語	ヒートアイランド
15	3 年	数 学	三平方の定理の利用

注：「日本語指導リーダー養成研修会」で使用した様式は、『小学校「JSL算数科」の授業づくり』（佐藤郡衛監修・JSLカリキュラム研究会著 株式会社スリーエーネットワーク 2005）のP34～35を参考に作成した。

NO 1	たしざん(2)	小・1	教科	算数
------	---------	-----	----	----

1 概要

対象	学年	小学校1年
	経験・知識	10までの加減法のやり方は、学習しているが、減法は苦手意識が強い。日常会話は理解でき、具体的な指示はわかる。指示どおりにすることは少ない。友だちとのコミュニケーションは苦手である。
目標	日本語力	「合わせる」「わける」という言葉は知っている。
	算数科	繰り上がりのある加法ができる。
主な活動	日本語	●「○に○をたして10 10と○で□」の加法の仕方の表現に慣れる。 ○足される数を見て、足す数を分けることを理解する。
	*挿絵や文章を読んで、加法の式に表す。 *「○に○をたして10 10と○で□」という表現を覚える。	

○は理解の目標 ●は表現の目標

2 活動の進め方・・【1時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
①10の数合わせをして、10の補数を復習する。 ◇数字カードを見ながら、10になるカードを出す練習をする。	T：これは、7ですね。7に何をたして10ですか。カードをだしなさい。 S：カード3を出して、3です。
②挿絵を見て場面を知る。 ◇挿絵をみてわかったことを話す。説明文を読む。くりを拾ったんだね。いくつ拾ったのかな。	T：絵を指でさして、これは何ですか？何個ありますか？ S：くりです。7個あります。 T：合わせていくつですか？
③繰り上がりあるたしざんの仕方を理解する。 ◇あといくつで10になるか考え、ブロックを3と2に分ける。 ◆ブロックを操作しながら、足し算の仕方を唱える練習をする。	T：くりの数だけブロックをおいてごらん7と5（操作活動） T：ブロックケースの7を指さして、何をたして10ですか？ S：3です。 T：5は、3といくつになりましたか？ S：2です。 S：合わせて 12です。
④計算の仕方を口で唱えながら、練習問題をする。 ◇ブロックを使わなくても、加数を分解できるように促す。	T：式に書いて、5を3と2に分けてから答えを書きましょう。 T：練習問題をしましょう。

◇：活動・参加を促す支援

◆：日本語の理解や表現を促す活動

[教材・教具] ・ 挿絵

・ ブロック

・ 数字カード

・ センテンスカード

「○に○をたして10 10と○で□」

3 活動のポイント・工夫

- 繰り上がりのある加法の活動は、10の補数を利用した計算方法で活用できるようにさせます。10の合成・分解は学習しているので、授業の始めに唱えたり、教室に掲示したりして、常に意識づけるようにします。
- 加数の分解には、半具体物で指導すると効果的な場合があります。最初から、ブロックを使わなくてもできることに重点を置かずに、だんだんと半具体物から離れていくような支援が必要だと考えます。
- 「○に○をたして10 10と○で□」というセンテンスカードを準備して、発問も同じ尋ね方をすると、理解と表現が定着します。
- 計算の仕方を唱える活動は、言葉に抵抗があってかなり難しいと思われそうですが、「みんなで唱える・グループで唱える・友だちに聞いてもらう」など、工夫することで耳から覚えていくことが可能です。

4 こんなとき、どうする？

- Q ブロックを使わずに式をみたら、すぐに答えを書いてしまいます。計算の仕方を□に○を足して10、10と△で考えさせると、面倒がってしないのですが。
- A 知っているとか、わかるから面倒だというケースですね。数の分解をしないで、数えながらしていると考えられます。答えが出せることは大事なことです。計算の仕方を身につけさせることを目標にして、ていねいに繰り返すことで、利便性に気づかせたいですね。
加数の分解もかなり高度ですが、ブロックなどの操作活動をとおして、活動と言葉(日本語)が結びついていくでしょう。
- Q 日常会話に困っているようなことはないのですが、指示を聞かないで次々しがります。丁寧になればケアレスミスが少ないので、どのような声かけや、手だてが有効ですか。
- A 次々と計算をしたい気持ちをすぐに止めないで、問題ができたことを「できたね」「がんばったね」と認めた後で、「ここはどうしたの」と数字に集中させて、説明をさせると先生の指示が明確になりますね。また、数字を当てはめると計算の仕方がわかる文を示し、繰り返し読ませてみましょう。

NO 2	こんなお話を考えた	小・2	教科	国語
------	-----------	-----	----	----

1 概要

対象	学年	小学校 2 年
	経験・知識	絵を見て話す活動は何回か経験している。しかし、それを文章で表現したことはない。絵を見て順番にならべられる。
目標	日本語力	指示した事や簡単な日常会話は、理解できるが、自分の思いや考えをうまく伝えることができない。文字は平仮名 50 音を覚え、カタカナと漢字(1年)を学習中である。しかし、文字を使って自分で文章表現できない。
	国語科	三枚の絵を見てお話を「はじめ・中・おわり」のお話を書くことができる。
主な活動	日本語	○お話の順序を考える時に、「はじめ」・「中」・「おわり」の言葉を理解する。 ○接続詞として、「つぎに」・「それから」を知る。 ●お話の順序を理解し、どこで誰が何をしているのかについて話したり書いたりできる。
	* 三枚の絵を見て作るお話の順番を考える。 * 場面毎にどこで誰が何をしているのかを話した後で話を書く。	

○は理解の目標 ●は表現の目標

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・〔1時間〕

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
①三枚の絵を話の順にならべ、番号をうち、「はじめ」「中」「おわり」の順にワークシートにはる。 ◆「はじめ」「中」「おわり」の言葉を教える。 (動作化や実物をしめしながら、言葉を理解させる。)	T: この絵をお話の順番にならべましょう。 はじめはどれかな？中は？おわりは？ S: 順番にならべる。
②ならべた絵の1枚1枚について、自由に自分の言葉で話す。 ◇登場人物や風景に目を向けさせる。 ◆会話文が入れられるように吹き出しを用意する。	T: 何がいますか。 S: うさぎと狐。 T: うさぎときつねは何をしていますか。 T: (次々と話を聞いていく。)
③②で話したことを基にもう一度1行ずつ話ながら、お話を書く。 ◇ひらかな・カタカナ既習漢字表を準備する。 ◆話しながら書く時に気になる表現があれば訂正する。 ◆段落のつながりがスムーズに行くように、接続詞(つぎに・それから)を教える等の支援をする。	T: 今の話を書きましょう。はじめはこの絵ですね。もう一度話してね。 S: うさぎが木の下にいます。 T: ではそこまで書きましょう。 (次々と話を再話しながら書いていく。) T: 次にどうしたのでしょうか。
④出来上がった文章を読み題名をつける。 ◆既習の教材を例示するなどして、「題名」について知る。	T: 書きあがった文を読みましょう。 S: 読む。 T: 題名を何にしましょう。

◇：活動・参加を促す支援

◆：日本語の理解や表現を促す活動

[教材・教具] ・ 3枚の絵とはじめ・中・おわりのカード・ワークシート
・ カタカナ・1年2年漢字表

3 活動のポイント・工夫

- 絵を見て先に口頭で話すことは、絵を見ながら、教師といろいろ話すことになるので、児童の考えや思いを引き出し、表現を確かなものにしていく効果があります。楽しい雰囲気の中で児童の思いを大切にしながら、お話しをすすめてください。
- 教師の支援をうけながら話し、話しながら書くことで、日本語の語順や、助詞のつかい方、基本文型などを自然にみにつけ、書く事への抵抗も少なくできると思われます。
- 挿絵を絵カードにすることで組あわせを自由に変えることができ、多様な考え（お話し）を引き出すことができます。
- 定着していないカタカナや漢字であっても、作文する上で書きたいと児童が思ったとき、いつでも見て書くことができるようにカードで持ったり、教室に一覧表を掲示するなどの工夫をしています。

4 こんなとき、どうする？

- Q 単元の学習レベルに日本語力が達していない児童には、その子なりのめあてをきめて指導していますが、その子が学級の子といっしょに授業を受けた時に、教材そのものの大まかな内容は、理解できても、肝心な、国語における学年相当の目標に達していないが、どうすればよいのか。
- A 同じような学習レベルに達するには、相当な時間が必要です。学年相当の目標の達成は難しいことも予想されます。そのような場合、「個に応じた指導」の観点から、その児童のその時間における目標を明確にし、その達成をめざせば良いと考えます。
- Q 「絵を見て先に口頭で話す。」とありますが、自分の思いがなかなか言えない子はどうすれば良いのでしょうか。
- A 事前に文の置き換え特訓や、「穴あきワークシート」などで、文のパターンを練習します。本時の授業を展開する時には、パターン化した文の短冊を用意しました。

例 （ が木の下にいます。）

NO 3	たし算のひっさん	小・2	教科	算数
------	----------	-----	----	----

1 概要

対象	学年	小学校2年
	経験・知識	1年で「1位数+1位数」の繰り上がりのたし算は理解できている。
	日本語力	ひらがなは丁寧に書くことができ、具体的な指示も理解できるが、文章題を読むことは苦手である。
目標	算数科	2位数と1位数 2位数と2位数 の加減計算ができる。
	日本語	○「くり上げて」の言葉を使って計算の仕方に慣れる。 ●「位」という言葉の表現に慣れる。
主な活動	「位」という言葉に慣れ、「くり上げて」と唱えながら計算する。	

○は理解の目標 ●は表現の目標

2 活動の進め方・・【1時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
① 1年生で習ったくり上がりのたし算の仕方を復習する。 ◇ 100玉そろばんを使って練習する。	T：4+8はいくらになりますか。 S：12です。
② 2位数+1位数のたし算を理解する。 34+8 ◇ 10以上になる場合は、くり上げを練習する。 ◆ 「十の位にくり上げて」と唱える練習をする。	T：34+8をします。まず、どのたし算からしますか。 S：一の位の4と8のたし算です。 T：さっき練習しましたね。 S：12です。 T：10以上になっていますから、十の位にくり上げて、42になります。 T：それでは、言葉で言ってみましょう。 ◆ S：十の位の3に1たして4
③ 計算の仕方を唱えながら練習問題を解く。 ◇ ノートに1を小さく忘れないように書く。	T：ノートに問題を書きながら練習しましょう。

◇：参加を促す支援 ◆日本語の理解や表現を促す活動

[教材・教具] ・数字カード ・100玉そろばん

3 活動のポイント・工夫

- 計算棒を操作して考えさせ、位に1を繰り上げればよいことに気づかせ、「繰り上げて」という言葉を作業中に何回も言わせることを通して、学習を定着させた。
- ノートに練習問題をするときには、「繰り上がりの1を必ず書きます」と繰り上がりごとに何回も唱えさせることをさせた。学習時にもまた練習問題時にも、同じようにすることで理解と定着がすすんだ。
- 唱える練習では、少し抵抗があるが、友だちの発表の仕方を聞きながら練習を繰り返し行くと、徐々に慣れてきて言えるようになってきた。

4 こんなとき、どうする？

- Q 「計算の仕方をお話してみましよう。」などの問題へはどう対応すれば良いのでしょうか？
- A ○+△をたして□、十の位に1を書いてたしていくつというように、表現を「パターン化」して、カードに書きます。それを、表示して何回も繰り返させ、覚えさせます。基本的なパターンを覚えたら、自分の言葉で自分なりの問題が発表できるようになります。
- Q 位を縦にそろえて書くことを指導するための工夫は？
- A ノートに書くときは、そばにいて、「一の位」「十の位」「百の位」と声かけをしながら学習をすすめましょう。子どものそばについて、マス目のあるノートを使い、基本的なパターンを確実に定着させてください。基本形の定着が大切です。

NO 4	もっと まちを しりたいね	小・2	教科	生活
------	---------------	-----	----	----

1 概要

対象	学年	小学校2年生
	経験・知識	バスに乗った経験はないが、バス・電車などの乗り物について知っている。
	日本語力	挨拶ができ、具体的な指示がわかる。易しい単語なら知っていて使うことができる
目標	生活科	○公共の施設へ行く過程を知り、表現する。
	日本語	●「～で（て）～へ行きます。」「～で～を食べます。」「～で～を見ます。」という言い方を知り、実際の見学の行程に合わせて表現することができる。
主な活動	*校外学習の計画を立てる。 *交通手段や行き先を表現する。	

○は理解の目標 ●は表現の目標

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【1時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
①校外学習の行き先を知らせる。 ◇図書館・美術館・動物園について知っていることを言う。	T：（それぞれの施設の写真を見せて）～を知っていますか。 S：はい、しっています。いいえ、知りません。 T：何がありますか。 S：～があります。
②行き先（写真）を順に並べ、道順を理解する。 公共施設の名前を知る。 ◇全面黒板に写真を貼り、順に並べる。 ◆それぞれの名称を知る。	T：行く順番に並べましょう。1番目にどこへ行きますか。 S：1番目に～へ行きます。 （順に2番目、3番目と尋ねて確かめる） 2番目に～へ行きます。 3番目に～へ行きます。
③交通手段と行き先を理解する。 ◆写真と乗り物のペープサートを使って視覚で理解するようにする。	T：何で～へ行きますか。 （施設ごとに、一つずつ順に） S：バスで <u>行</u> きます。 歩いて <u>行</u> きます。 （「歩いて」の場合は <u>て</u> になることを知らせる）
④「わたしは～で（～て）～へ行きます。」という言い方で、行程を表現する。 ◇ペープサートを動かしながら説明する。 ◆「バスで <u>行</u> きます。」「歩いて <u>行</u> きます。」の2種類の言い方に慣れる。 ◆校区内のよく行くお店や施設への手段を表現する。	T：「～で（～て）～へ行きます。」を使って言ってみましょう。 S：わたしはバスで図書館へ行きます。 わたしは歩いて美術館へ行きます。 わたしは歩いて動物園へ行きます。 T：あなたがよく行く場所への行き方を言いましょう。 S：わたしは自転車でスーパーへ行きます。 わたしは歩いて学校へ行きます。

◇：活動・参加を促す支援

◆：日本語の理解や表現を促す活動

【教材・教具】 ・施設の写真（図書館・美術館・動物園）・校区内の施設の写真

・ペープサート（バス・歩いている人）

・ワークシート（わたしは で へ 行きます。）

3 活動のポイント・工夫

- 母語では施設名を知っていても日本語では知らない場合が多いので、写真を用意すると理解が容易です。また、可能ならば施設内部の写真も提示できるとより理解しやすいです。
- 交通手段（バス・徒歩など）は、それを使って移動するので、ペープサートにして動かせるようにすると、視覚的に分かりやすく、楽しく学習できます。
- 普段よく行っているお店や施設、学校などを写真で提示し、交通手段を表現するようにして日常生活へつなげるようにすると、より生活科の学習と日本語が結び付けられてよいと考えます。
- 昼食の場所や動物園で見たい動物など、児童の興味のあることも扱うと校外学習に出かけることへの期待が大きくなり、学習効果も上がります。
- 写真やペープサートは、校外学習へ行った後に「～で～へ行きました。」という過去形を習得させるときにも使うことができます。1つの教材・教具を多目的に使用することが大切です。

4 こんなとき、どうする？

- Q 渡日間もない児童で、日本語が全く理解できない場合にはどうしたらよいのでしょうか。
- A なるべく写真や実物・絵などを用意して、目で見て理解させるようにしましょう。初期指導が始まったばかりの児童なら、見学する施設の名称と乗り物の名称を覚えることだけを目標にしてもよいと思います。教師が「～へ」と言って施設の写真を指し、「～で」と言いながら乗り物または徒歩のペープサートを見せ、動かしながら「行きます。」と言うようにすれば、状況は理解できると思います。児童は教師の後に続いて何度かくり返して言うといいでしょう。
- Q 実際の行程はもっと複雑なのですが、詳しく教えなくて良いのでしょうか。
- A 児童の日本語の力にもよりますが、一時間に教える内容は厳選した方がよいでしょう。あれもこれもと欲張っても、一度にはなかなか覚えられないものです。どうしても必要なことは次の時間に習得させるなどスモールステップで学習できるように計画を立ててください。

NO 5	昔の暮らし、見つけた	小・3	教科	社会
------	------------	-----	----	----

1 概要

○は理解の目標 ●は表現の目標

対象	学年	小学校3年
	経験・知識	インドネシアより渡日1年。母国で社会科学習経験はなく、日本での地域の様子や生活について殆ど知らない。祖父母などから母国の昔の生活について聞いたこともない。
	日本語力	多少の困難はあるが友達とのコミュニケーションは出来る。教科内容についての簡単な問いかけには日本語で答えることが出来る部分もある。分からない言葉は絵や図で示したり、平易な表現に言い換えると理解できることが増えてきた。事実を短い文で書ける。
目標	社会科	昔の道具やくらしの様子に関する資料を見て、その移り変わりを知る。
	日本語	○ 昔の道具やくらしに関する事物の名称を知る。 ○●「昔は～でした。今は～です。」などの表現を使って道具の変化について気づいたことをやりとりできる。
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> * 昔と今のくらしや道具の写真などを見て、名称や用途を知る。 * 道具を用途別に分け、古い順に並べる。 * くらしや道具の変化を話したり、簡単な文に書く。 	

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【1時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
<p>①昔のくらしの写真や絵を見て、何をしているのか、どんな道具があるのかを話す。 ◇数種類の写真や絵を利用して、昔のくらしや道具の特徴をとらえやすくする。</p>	<p>T: これは何ですか。何をしていますか。 S: ごはんを食べています。人がいっぱいいます。／何か作っています。でもちょっとちがいます。 T: (和服やもんぺなどをさして) これは何か知っていますか。 S: 見たことはあるけど、わかりません。</p>
<p>②昔と今の道具の写真・絵等を見て、見た事があるか何に使うのかを考える。 ◇母語教室での料理作りの経験から、用途のわかるものは積極的に言わせる。 ◆発話内容に合わせて、道具の名称などを教える。</p>	<p>T: これは何ですか。見たことはありますか。いつ見ましたか？ S: 知っています。家にあります。／見たことがありません。 T: いつ使いますか。何をする時に使うと思いますか。 S: お料理を作る時(服を洗う時)です。 T: これはコンロといいます。 T: これは洗濯機といいます。</p>
<p>③道具を用途別にグループ分けする。 ◇道具をカードなどにしておき、グループ分けしやすくする。</p>	<p>T: 同じ仲間のものはどれですか。 S: これとこれです。 T: これはどの仲間ですか。何をする時に使いますか？ S: これかなあ？これとこれは服を洗う時に使います。</p>

<p>④グループ分けしたものを、古い順に並べる。</p>	<p>T：この中でどれが一番古いですか。古いものから並べてください。 S：これが1番で、つぎ、これですか？</p>
<p>⑤道具の変化について気づいたことを話し、簡単な文に書く。 ◆今と昔を比べる言い方を示す。「昔、～の時は～を使いました。今は～を使います。」など</p>	<p>T：昔と今では、どこが違いますか。 S：今はこれはないです。これを使います。昔は～でした。今は～です。 T：ノートに書きましょう。</p>

◇：活動・参加を促す支援

◆：日本語の理解や表現を促す活動

[教材・教具] ・道具の写真・絵（あれば実物） ・くらしの写真・絵
・写真・絵カード・語彙、表現カード ・ワークシート

3 活動のポイント・工夫

- 在籍学級で「昔のくらし」の学習に入る前の、先行1時間の活動として設定しました。渡日1年とまだ浅く、生活習慣の違いや行動範囲も限られているので、地域の様子はおろか住居の周りの様子や、生活についてのさまざまな事象も知らないことが殆どです。よってまず、今の生活に関わりのあることからや道具に目を向けさせ、名称や用途を知った上で、昔の生活や道具について知り、自分たちで調べていく活動へとつなげたいと考えています。
- 昔の暮らしぶりや道具など、出来るだけさまざまな写真や絵を準備して、特徴をとらえやすくします。洗濯板などは実物があれば手元においておくと、在籍学級での実際の活動にも使うことが出来ます。
- 母語支援の機会をとらえて、母国での生活や道具について父母などから聞き取る活動を取り入れるとよいと思います。

4 こんなとき どうする？

- Q. 昔の生活や道具にあまり興味を持っていない場合はどうすればいいでしょうか。
- A. 写真や絵などを用意するだけでなく、地域の郷土資料館などで直接見たりふれたりする機会を作ることも大切です。できれば一緒に実際に出かけていき、実物にふれるといいと思います。また、また、漫画やアニメーション、さらには、昔話の絵本など、視覚や聴覚に訴える材料を教材として活用すると、歴史や昔のことに興味や関心を持つようになります。
- Q. 母国の生活で使う道具と、日本の道具の比較をさせたいのですが？
- A. 日本のくらしや道具だけでも未知の部分が多く、日本語表現も難しいので、子どもにとってはハードルが2つになり負担が大きいと考えられます。あえて比較はしなくてもよいと思います。

NO 6	か さ	小・3	教科	算 数
------	-----	-----	----	-----

1 概要

対象	学年	3年
	経験・知識	母親がフィリピン出身であり、母親の日本語能力が十分でなく、本児童も日本語の力が非常に弱い。
	日本語力	日本語の力はわずいぶん付いてきた。日常会話はほぼ理解できている。しかし、母語は書くことがほとんどできない。そのため、本児にとってもっとも得意な言語は不十分な日本語になりつつある。漢字については、まだまだ不十分であるが、既習学年の漢字については約60%程度書くことができるようになってきた。
目標	算数科	○普遍単位(ℓ、dℓ、mℓ)のよさに気づき、身の回りの容積表示を進んで見つけたり、適切な大きさのますを使ってかさの測定ができる。 ○かさの普遍単位の必要性について考えられる。 ●かさを「ℓ」「dℓ」「mℓ」の単位を用いて表したり、ますを使ってかさの測定ができる。 ○ますの使い方や、かさの単位「ℓ」「dℓ」「mℓ」の読み方、書き方、相互関係がわかる。
	日本語	●「かさ」という言葉について、意味を理解する。
	主な活動	具体物を使用し、水がどちらに多く入っているかを考え、かさという言葉を理解する。

○は理解の目標 ●は表現の目標

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【1時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
① 同じ形の容器を用意し、同じ量の水を入れ、どちらが多いか比べる。	◇T：どちらが多いですか？ ◇S：こちらが多いと思います。
② 違う形の容器を用意し、二つの容器ではどちらが多くの水が入っているか、予想を立てる。	◇T：どちらが多いですか？ ◇S：こちらが多いと思います。
③ 調べ方を考える。 <予想される見通し> ・直接移し変える。 ・同じ入れ物に移し変える。 ・小さなカップに移し変えて何杯分かはかる。 ・1つのカップを使ってはかる。 (dℓ枡、ℓ枡、メスシリンダー等)	◇T：どうしたら比べられるでしょうか？ S：水筒のふたを使って比べます。 S：dℓ枡を使います。 S：これで(メスシリンダー)調べます。
④ 「かさ」という言葉の意味を覚える。	◆T：水の量を示す言葉に、「かさ」があります。 ◆「水かさ」など「かさ」を使った言葉に注目させ、くりかえして言わせる。

◇：活動・参加を促す支援

◆：日本語の理解や表現を促す活動

[教材・教具] ・1 dℓ枡、1 ℓ枡、メスシリンダー等

3 活動のポイント・工夫

- 「水かさ」などの言葉には触れたことがあるかも知れないので、経験を十分に確認することが大事だと考えています。
- 具体物を利用し、どちらが多いのか比べる「比べあい」を体験させる。
- 普遍単位については在籍学級で学ぶので、その予備段階として本授業を行う。

4 こんなとき、どうする？

- Q 「かさ」という言葉に対する日常的な経験がまったくないのだが・・・
- A この場合は、水の量を示す新しい言葉としての「かさ」を学習することとなります。
「かさ」は在籍学級の児童にとっても聞きなれない言葉でもあるので、何度も繰り返して発音させます。しかし、水の量を示すということを理解すれば、それ以上の指導を行う必要性は低いと考えています。
- Q 子ども自身で比べ方について全くイメージが思いつかない場合、どのような指導方法があるでしょうか？
- A 子ども自身が具体的にイメージを思いつかない場合は、教師主導で1dℓ枡、1ℓ枡、メスシリンダーなどを提示し、具体的な「比べあい」の作業を指導すればよいと考えます。

NO 7	「一つの花」	小・4	教科	国語
------	--------	-----	----	----

1 概要

○は理解の目標 ●は表現の目標

対象	学年	小学校 4 年
	経験・知識	両親が日系ブラジルで、日本の学校で 4 年目。新しい教材（物語文）は、ふりがなをうつなどして、何回も音読の練習をすると自信をもって読むことができる。漢字の読み書き、言葉の意味が十分理解できていない。4 年の 4 月に転校し、学習や生活に対する不安から不登校傾向になる。家庭訪問や取り出し指導での復習・市のサポーターの支援で学習への意欲が出てきている。
	日本語力	日常会話や、具体的な指示は理解できている。言葉の意味や文法・文末の表現等の細かい違いについては十分理解できていない。三学年の漢字の練習をしている。感じたことを表現しにくい。
目標	国語科	人物の気持ちや、心情の変化を理解する。
	日本語	○～だの、～だの、～や、～や、～でしょうかなどの表現とその意味に慣れる。 ●場面ごとの人物の気持ちを自分の言葉で表現（話す、書く）することができる。 ●一つの花を見つめながら行ってしまったお父さんがゆみ子に伝えたかった事を考える。
主な活動	* 音読（分ち書き、文末表現）を重視する。工夫して音読するとともに、場面ごとの変化（人物）にも目をむけて、心情の変化を音読・文章で表現する。	

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【1 時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
①全文を通読する。 ◇ゆっくり、ていねいに指導者と声をそろえて通読する。 ◆理解できていないと思われる言葉で立ち止まる。	T：この絵（挿絵）を見て、わかることはないですか。一つという言葉が何回も出てくるね。 S：ゆみ子が、ひとつだけ食べている。
②プラットフォームでの別れの確かめ読みをする。 ◇さし絵を重視し、だれが・どこで・どんな会話をしているかななどを想像させる。 ◆自分の言葉で表現させる。 ◆文末の表現に目を向けさせる。	T：挿絵のおかあさんとお父さんの様子から気のついたことやわかることはなにかな。 S：泣き出したのでこまっている。どうしたらよいのか考えている。お父さんになき顔を見せたくない。
③人物の心情の変化（父親）に焦点をあてて読み深める。 ◆文末の表現に目を向けさせる。 ◇日常生活で使う言葉に目を向けさせて文につなげる。 ◇花をもらうときのゆみ子のようす ◇にっこり笑ったお父さんの気持ち	T：「～のでしょうか」のあとに、続く文を考えて見ましょう。 S：きっとそうだと思う。 T：一つの花を手にしたお父さんの気持ちについて考えてみよう。 T：食べるものではなくて「花」を見てに

	<p>っこり笑ったゆみ子を見てどんなことを思った。</p> <p>S:「花」を見て笑えたのでよかった。</p>
<p>④自分の言葉で書く。</p> <p>◆一つの花を見つめながら行ってしまったお父さんの気持ちについて簡単な文を書く。</p> <p>◇挿絵をもとに想像するようにさせる。</p>	<p>T:一つの花を見つめながら行ってしまったお父さんが、ゆみ子に伝えたかったことを文に書く。</p> <p>S:花を見てゆみ子が喜んだのでよかったと思っている。</p>

◇: 活動・参加を促す支援

◆: 日本語の理解や表現を促す活動

【教材・教具】 ・～だの等の文型の短冊

・ワークシート

・挿絵の拡大図

3 活動のポイント・工夫

<p>○戦争についての事前指導を丁寧にしておくことが必要です。</p> <p>○3年生で学習する「むかしのくらし」など学習や物語文等でその時代の様子について児童にある程度理解させておけば、理解が深まります。</p> <p>○音読を大事にします。特に文末の表現をきめ細かく指導していきます。言葉の意味を、丁寧に指導し、児童のイメージを豊かにしていきます。児童の言語習得の能力に応じて具体的な文例等を用意しておくことも表現を定着させるためには効果的です。</p> <p>○言葉の置き換えを取り入れる。 文や言葉を自分の言葉で置き換える活動を通して、児童の日本語の理解を深める。</p> <p>○場面ごとの心情の変化（変化する意味）を理解させること。 場面ごとに（父親、母親の様子、ゆみ子の成長等）を理解させ、ノートには続き文や「 」の中の言葉をふくらませて書くように支援します。</p> <p>○ワークシート・挿絵を活用する。 挿絵も十分活用しながら、場面の様子をしっかりとらえさせます。</p>

4 こんなとき、どうする？

<p>Q 戦争といった体験のない事柄を児童や外国籍の児童にどのように深めればよいのでしょうか。</p> <p>A 3年で学習した「ちいちゃんのかげおくり」や「一つの花」に出てくる戦争の様子や言葉について児童の疑問等に丁寧に答えながら指導していくことが大事です。また、事前学習として写真集や映像を見せ、戦争のイメージを豊かにさせることも必要です。</p> <p>Q ブラジルからきた児童が、人物の心情や変化を自分の言葉で言えないとき（書けないとき）どうするとよいでしょう。</p> <p>A 駅での別れの時、父親の思いが書けないとき、どんな感じがするのか、それでも言えないとき、明るい感じがするのか、暗い感じがするのかといった聞き方でスモールステップで一つずつ内容をおさえることが理解につながると思います。</p>
--

NO 8	もののあたためり方	小・4	教科	理科
------	-----------	-----	----	----

1 概要

対象	学年	4年
	経験・知識	ブラジルで4年生まで就学。4月より本校へ。 空気や金属など、日本に来て学習した言葉も理解できている。
	日本語力	日常会話ができてきた。助詞は、ほとんど入れずに話す。2年生の漢字を学習しているが、カタカナでも忘れていたものがある。数を比較するときの言いかた「こっちの方が多い」は学習済み。
目標	単元	ものによって温まり方がちがうことを知る。
	日本語	● 「こっちの方が熱い」など、比較して答えられる。 ○ どちらが熱くなったか、どちらがはやく熱くなったかがわかる。 ○ 「～と思いますか？」などの質問に慣れる。
主な活動	*水とお湯に手を入れ、温度をくらべる。 *熱した金属の変化を予想し、ちがいを知る。	

○は理解の目標 ●は表現の目標

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【1時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
①水の温度をくらべる。 ◇お湯と冷たいままの水に手を入れて、温かさをくらべる。 ◆単語で答えたときに、それだけで終わらない言いかたをまねさせる。	T: どちらが熱いと思いますか? S: これ(です)。 T: こっちの方が熱いと思います。 S: こっちの方が熱い。
②水を温める。 ◇熱している水に手を入れて、温度が上がるのを感じる。 ◆体感で覚えられるよう、冷たい水から温度が上がってきたところで、手を入れさせる。	T: 熱い? S: ううん、熱くない。 T: 熱くなった(よ)。熱くなった? S: 熱くなった。 T: もう熱くなったね。
③スプーンをお湯につけて温度をくらべる。 ◇お湯につけたスプーンの先と、つけてないスプーンの前とを比べる。 ◆図で、スプーンの前、持つ方を示す。 つづけて、柄の部分くらべる。 ◇お湯につけたスプーンの前と、つけてないスプーンの前とを比べる。	T: このスプーンの前は熱くなった? S: 熱くなった。 T: スプーンの前をお湯に入れます。持つ方は、熱くなると思いますか? S: 熱くなる(と思います)。 T: 熱くなった? S: 熱くなった。
④銅の棒とステンレスの棒をくらべる。 ◇お湯に、同じ太さの銅の棒と鉄の棒を同時につけ、どちらが速く温まるか予想する。 ◆予想は、選択肢から選ばせる。	T: 銅とステンレス、どちらの方が速く熱くなると思いますか? S: 「ステンレス」「銅」「同じ」 S: 銅の方が速く熱くなった。

◇: 活動・参加を促す支援

◆: 日本語の理解や表現を促す活動

【教材・教具】 ・実験道具(ビーカー, スプーン, 電熱器, 水, お湯,)

(銅の棒, ステンレスの棒)

3 活動のポイント・工夫

- もののあたたまり方は、在籍学級での授業を通して理解させたいので、実験結果の予想もそのときに初めて行います。従って、実験結果が予想できるような実験は取り出し授業においては行いません。
- 体感と「熱い」「冷たい」などのことばを結びつけたいので、最初は温度計を使いません。授業後半で「熱い」「冷たい」の理解深まったときに、実際に温度計でそれぞれの温度を確認します。
- 銅とステンレスでは、明らかに熱くなる速さがちがいます。そこで、その二つをくらべる実験を入れたわけですが、熱伝導率のちがいまで教えたいわけではありません。ここでは、ものによって、熱のつたわりかたはちがうということを知っていただければいいのです。

4 こんなとき、どうする？

Q 「熱い」と「冷たい」の中間「温かい」は、どう扱うのですか？

A この授業では、温度が変化するときのことば「熱くなる」が最も重要なことばになるので、それを何度も繰り返します。「温かい」「温かくなる」などということばが出てきたときには、その言葉を大切に、「熱い」と「温かい」のちがいについて指導してください。ただ、この授業で大切な点は、ものの温まり方のちがいを理解することです。

Q 予想をたてられないときは、どうしますか？

A カンでもいいので、どの選択肢に予想したのかはハッキリさせておきます。何を明らかにしなければならないのかが分からないから、予想がたてられない場合も考えられます。従って、実験道具を使いながら、具体的に何を明らかにしなければならないのかをていねいに説明する必要があります。

NO 9	漢字であそぼう	小・5	教科	国語
------	---------	-----	----	----

1 概要

対象	学年	小学校5年
	経験・知識	ひらがな・カタカナの読み書きがスムーズにできる。 簡単な漢字が読める。
	日本語力	あいさつや身のまわりの物の名前を言うことができる。 日本語の指示は大体わかるが、話し言葉は不十分である。
目標	国語科	部首のもつ意味を知り、漢字への興味を深める。
	日本語	○部首のもつ意味が分かる。 ●なかま分けした漢字をよむことができる。 ●わかったことを、日本語で話すことができる。
主な活動	* 漢字をなかま分けする。 * 同じ部分をもつ漢字の意味を考える。	

○は理解の目標 ●は表現の目標

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【1時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
① 漢字をよむ。 ◇漢字カードを見せて読ませる。	T：漢字を読みましょう。 S：海 池 汗 湖 林 森 板 脳 胃 肺 腸など
②漢字をなかまわけする。 ◇漢字カードを見せてなかま分けをさせる。	T：形がよく似た漢字がありますね。いくつかのなかまに分けましょう。 S：3つくらいに分けられそう。
③漢字の意味のつながりを考える。 ◆なかま分けした理由を発表させる。	T：どこがよく似ているのでしょうか。意味も考えましょう。 S：さんずいがいっしょ 木がある 月がついている ◆さんずいがついている字は水に関係がある漢字です。 ◆月（にくづき）は体に関係のある漢字です。
④次時の予定を知らせる。	T：イ（にんべん）など他の部分をもつ漢字を集めましょう。

◇：活動・参加を促す支援

◆：日本語の理解や表現を促す活動

【教材・教具】 ・絵カード ・漢字カード・漢字辞典

3 活動のポイント・工夫

- 最初に絵カードをみせ、その後よみがなのついた漢字カード、漢字カードと段階を踏んでわかりやすく活動させます。
- 漢字のなかま分けの理由を発表させるときは、細かい表現上の誤りなどあまり気にせず、自分の考え、伝えたいことなどが、聞き手に伝わるように動作などを交えながら発表させてください。意欲的な学習態度を大切にしています。
- 日本語が十分に話せないので、単語を並べて、少し話ただけでも自分の思いや考えが伝えることを理解させ、のびのびと発表させましょう。
- 漢字には、その部分が意味の一部を表すものがあることを知り、クイズや自分の体験をなどを通して、漢字の成り立ちや漢字の形と音・意味への学習へつなげます。また、発展的な学習として、漢字辞典の使い方も指導して漢字のもつ意味を自分で確かめることが出来るようにさせたいと考えています。

4 こんなとき、どうする？

Q 習ったことを定着させるには？

A 他の教科の学習内容を練習問題として使用し、学習の回数を増やす工夫をしてみてください。

Q 興味を持続させるには？

A 漢字を「読む」 → 「書く」 → 「意味を考える」 → 「辞典で調べる」といったように、少しレベルアップした学習へとつなげ、分かる喜びや学習する楽しさを体感させ、学習への興味や関心をさらに高めてください。

NO 10	明治維新	小・6	教科	社会
-------	------	-----	----	----

1. 概要

対象	学年	小学校6年生
	経験・知識	日本史の予備知識はない。
	日本語力	あいさつ、日常の簡単なやりとりはできる。(教科学習以外の活動) 学習言語については2割～3割程度の理解である。
目標	社会科	幕府が倒れ、明治政府が成立したが、政治の方針は幕府と変わらないことをとらえることができる。
	日本語	○歴史的用語の意味を絵や身体表現を通して理解する。 ●「～と～を比べてちがうところは？」の表現に慣れる。
主な活動	五か条の御誓文と五枚の立て札の項目を絵札で表し、比べることで、明治政府の政治のやり方が幕府の政治のやりかたと変わりのないことを理解する。	

○ は理解の目標 ●は表現の目標

2. 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 【1時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやり取りの例
①江戸幕府の政治のやり方をふりかえる。 ◇学習内容とイメージが重なるように数枚の絵札より選択できるようにする。(読み仮名をつける) ◆政策の読み方を復習し、内容を確認する。 ・幕藩体制・鎖国・身分制度・キリスト教禁止	T: 江戸幕府が行っていたことを次の絵の中から選びましょう。(政策を確認して) S: (並べているカードから) これです。 T: 身分制度はどれですか?
②明治政府の改革について調べる。 ◇学習内容とイメージが重なるように絵札を使い説明する。 ◆政策の読み方を確認し、内容を図や演技を入れながら説明する。 ・廃藩置県・四民平等・解放令・版籍奉還	T: 四民平等(しみんびょうどう)はどれ? S: (並べているカードから) これです。 T: 新しい身分はどれですか?
③支配されてきた民衆の気持ちを考える。 ◇政府の一般民衆への姿勢が変わらないことを身分制度と四民平等を比較しながら関係を考える。 ◆絵札で立て札の内容を確認する。 ・五枚の立て札	T: 江戸時代の政策と比べてみよう。 S: (絵札を見ながら) これが同じです。 T: (気持ちを表す言葉を書いたカードを並べて) 自分がこの人だったらどの気持ちになりますか?

◇ : 活動・参加を促す支援

◆ : 日本語の理解や表現を促す活動

【教材・教具】 ・絵札 (・江戸幕府、明治政府の政策 ・身分を表すもの) ・気持ちや思いを言葉に表したカード

3. 活動のポイント・工夫

- 習得語彙が少ないのでできるだけ絵や教師の演技（ジェスチャー）などを入れながら内容や意味を理解させていくことが大切です。
- 歴史は内容が難しく、また児童に予備知識がないので教科書や資料集も時代の中心になる事柄をしばって絵や写真と習得学習言語をうまく結びつけながら時代の流れを理解させる必要があります。
（学習内容も児童理解度に合わせて限定し、あれもこれもと増やさないことが肝心です。）
- 日ごろから学習言語を意識した言葉がけも意識していると習得も早く、学習場面と日常の場面とうまく重ね合わせ意味の理解が深まります。
- 発問や説明は子どもの実態を把握して、吟味して行うことが大切だと思います。

4. こんなときどうする？

- Q：理科や算数と違って国語や社会は日常の複雑な心情や出来事を表す言葉が多いのですが、より受け入れやすく、よりわかりやすく、興味を持つことができ、できるだけ早く理解を深められる方法がありましたらぜひ教えてください。
- A：漫画やアニメーションなどの視聴覚に訴え理解を促す教材をたくさん探し、授業に合わせて子ども達に提示していくと効果があります。

NO 11	体 積	小・6	教 科	算 数
-------	-----	-----	-----	-----

1 概要

対象	学年	小学校6年
	経験・知識	・面積は既習し、基本的な図形の面積を求めることができる。 ・整数の四則計算ができる。
目標	日本語力	・指示がわかる。初級指導が終わり、教科指導を学習中。 ・自分の気持ちが話せ、簡単な文なら読むことができる。
	算数科	体積の求め方がわかる。
主な活動	日本語	○体積の意味がわかり、簡単な立体の体積が求められる。 ●たて×横×高さで、体積が求められる。 ●わかったことを、日本語で話すことができる。
	* 具体物を用いた導入から、体積の意味を考える。 * 体積の公式を用いて、体積を求めることができる。	

○は理解の目標 ●は表現の目標

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・〔1時間〕

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
<p>今日から、新しい学習に入ります。 ①具体物の立体から、基本のいくつかを考える。 ◇1つの段に、(基本が) 何こあるか想像させて、全体でいくつあるか考えさせる。 実物を切って、体験させてみる。</p>	<p>T：この箱（立体）は、これ（基本：1cm³）いくつ分で、できていますか。 S：24（こ）です。 T：実際に切って確かめてみましょう。</p>
<p>②体積の求め方考える。 ◆24（こ）となった演算を言わせる。 ◇既習の「長方形・正方形の面積の公式（求め方）」を想起させる。 ◇体積も、面積と同じように『1cm³のいくつか』を考えて求めることを強調しておく。</p>	<p>T：どうやって考えましたか。 （どんな計算をしましたか。） S：2×4×3＝24です。 T：長方形と正方形の面積の公式を覚えていますか。 S：「たて×横」「1辺×1辺」です。 T：もと（基本の形：1cm³）のいくつ分で数えたことを覚えていますか。 T：体積も、「もと（基本）のいくつ分』で数えます。それは、「たて×横×高さ」で求めます。</p>
<p>③体積の求積の公式と単位を覚える。 ◆「たて×横×高さ」「1cm³（1立方センチメートル）」を『書く』『言う（唱える）』ことで、定着を図る。</p>	<p>T：公式（「たて×横×高さ」）です。 書いて、声に出して覚えましょう。 新しい単位です。 書き方、読み方も覚えましょう。</p>
<p>④次時の予定を知らせる。</p>	<p>T：次時は、今日の続きと、少し違う形の体積の求め方を勉強します。</p>

◇：活動・参加を促す支援

◆：日本語の理解や表現を促す活動

【教材・教具】 ・ワークシート

・直方体：3 cm×2 cm×4 cm程度の大きさ

スポンジ等で出来ていて、カッター等切れるもの

・もと（基本）になる立方体（1 cm×1 cm×1 cm）模型

3 活動のポイント・工夫

- 具体物を操作することで、問題（課題）の把握が容易になり、その問題（課題）解決のための手立ても考えやすくなります。
- 具体物(直方体と、基本となる立方体)を準備して、それを提示しながら「これ(直方体)は、基本形(立方体)が、いくつ分？」と、問題を投げかけることで、児童自らがいろいろと考えることにより、自然に『公式』である「たて×横×高さ」により体積を求積できることに気づかせることができ、体積の求め方を習得させることができます。
- 実物(立体)を切る等の操作をすることで、理解がより確かなものになります。さらに、実物(立体)をひっくり返すという操作をすることで、「たて」「横」「高さ」は変わっても、『もとのいくつ分』については、変わらないことが確認できます。
- 既習の「面積」の学習を想起させることにより、「体積」も『1単位量あたりのいくつ分』で求められることに気づかせることが、大切です。
- 「ワークシートに、書いてまとめる」作業を行うことで、学習内容の定着が進みます。
- 新たに学習する「公式」「単位」「用語」などは、「書く」だけでなく、「言う(唱える)」ことで、身につくこととなります。

4 こんなとき、どうする？

- Q. 学習したことを、生活の場にかすには？
- A. この1時間だけで考えるのではなく、単元全体の中で考えてください。いろいろな方法が考えられます。
- Q. 教える内容のレベルは、どうすれば良いか？
- A. 児童の実態によります。ただ、「欲張りすぎないこと」と「児童の学力より、少し上のレベルのねらいとすること」が大切です。また、急ぎすぎないことも必要です。

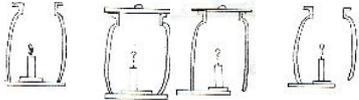
NO 12	ものの燃え方	小・6	教科	理科
-------	--------	-----	----	----

1 概要

○は理解の目標 ●は表現の目標

対象	学年	小学校 6 年
	経験・知識	生活経験は豊かである。 生活の中で物を燃やすという経験はある。
	日本語力	ひらがなはほぼ読める。 具体的な指示はていねいに話せば理解できる。
目標	理科	ものの燃え方と空気の関係を理解する。
	日本語	○ ものの燃え方を理解する。 ● 「もえます」「きえます」という言葉や実験で使う道具の名前を覚える。 ● 「～が～するとき～があります」「なぜなら～からです」という言い方がわかる。
主な活動	*実験を通して、もの燃えるときには空気が必要であることを理解する。	

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【2時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
<p>① ものの燃え方について考える。 挿し絵を見ながらものを燃やした経験を思い出す。</p> <p>◆生活の中の経験とこれからする実験を関連づける。</p>	<p>T: 今までにものを燃やしたことがありますか。</p> <p>S: はい、あります。(挿し絵を指差しながら経験したことを思い出す。)</p> <p>T: もんだいを書きましょう。</p>
<p>② びんのなかのろうそくの燃え方を調べる。 ワークシートの順に予想をたてる。</p> <p>(1) (4) は燃える (2) (3) は消える (1) (2) (3) (4)</p>  <p>◇条件の違いを丁寧に示し、実験の意味が理解できるようにする。</p>	<p>T: どれが燃えますか。 (それぞれの場合について考える。)</p> <p>S: (1) と (4) が燃えます。</p> <p>T: なぜそう思いますか。 ◆S: なぜなら空気があるからです。</p>
<p>③ 条件の違いと煙の動きとの関係を考える。 線香を近づけて、煙の動きを調べる。</p> <p>◇線香を近づけ、ものが燃える時の煙の動きを観察し、空気が入っていることを理解する。</p>	<p>T: (1) (4) の燃えている時の煙の動きを調べましょう。 煙の流れを青の色鉛筆で書き込む。 ろうそくの炎は赤で塗る。</p>

<p>④ 実験の結果を発表する。</p> <p>◆理解したことを日本語で言い表す。</p>	<p>T: なぜもえるのですか。</p> <p>◆S: なぜなら空気があるからです。 ものがもえる時、空気があります。</p>
---	---

◇: 活動・参加を促す支援

◆: 日本語の理解や表現を促す活動

[教材・教具]・底のない集気びん・アルミニウムのふた・ろうそく・線香・マッチ

燃え殻入れ・粘土 ・ぬれ雑巾 ・ベニヤ板・挿し絵（コンロ、七輪、かまど、たき火など）

3 活動のポイント・工夫

○実験とワークシートを並行して考え、理解を深めるようにする。理解を助けるために、写真や絵を多く用いるようにする。ものを燃やす経験を思い出すための挿し絵を用意しておく。かまど、七輪、コンロ、たき火などである。常に、具体物や挿し絵などを使い、視覚に訴える学習形態を用いるようにする工夫します。

○実験の仕方については違いを十分に理解させるようにする。

(1)では、ふたがない。(2)では、ふたがある。(3)では、底があいているが、上部にはふたがある。(4)では底があいているし、ふたもない。それぞれの条件の違いをていねいに示し、実験の意味が理解できるようにしています。

○赤、青などの色鉛筆を使うことによって、実験の内容を整理するようにする。この場合は、炎と煙、空気の入れ代わりを対比して、理解を助けようとしています。

4 こんなとき、どうする？

Q 次の時間の学習で取り扱う教材ですが、酸素や二酸化炭素のような目に見えないものを教えるときはどうしたらいいでしょう。

A あまり大きくない程度の画用紙の表に酸素と書きます。裏に二酸化炭素と書きます。表の酸素を口のほうに持って行って、吸うまねをします。そのあと、画用紙を裏返して、二酸化炭素の方を向けて吐き出します。酸素や二酸化炭素が日常生活の中に存在することを理解させましょう。

空気の場合、次のような「仕掛け」はどうでしょうか。空気と書いた紙を開けると酸素約20%と窒素約80%となっています。

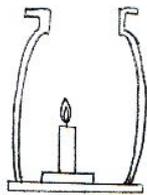
物が燃えたあとの空気は酸素が窒素に変わっていくように少しずつ紙を巻紙のように変化させていくと理解しやすいと思います。大きなビニール袋を使ってすることもできると思います。ビニール袋の中身が空気、その中に酸素と窒素が入っているという二重構造にして、紙で作ったマッチを近づけると、だんだん酸素がなくなっていくという仕掛けなどをつくれれば、楽しく理解できると思います。NHKTV「ためしてガッテン」などで紹介しているような模型があれば理解しやすいですね。

ものの燃え方を調べよう 名前

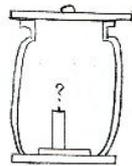
もんだいを書きましょう。

もえるのはどれでしょう。よそうを書きましょう。

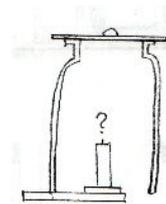
①



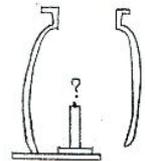
②



③



④



わかったことを書きましょう。

	けっか	わけ
①	○ (もえます) × (きえます)	なぜなら ~ からです。
②	○ (もえます) × (きえます)	なぜなら ~ からです。
③	○ (もえます) × (きえます)	なぜなら ~ からです。
④	○ (もえます) × (きえます)	なぜなら ~ からです。

まとめ

ものが

とき、

があります。

NO 13	現在進行形	中・1	教科	英語
-------	-------	-----	----	----

1 概要

対象	学年	1年
	経験・知識	中学校に入学して初めて英語を学習した。
	日本語力	日常生活に支障のない程度の会話ができる。 読み書きが十分に出来ない。
目標	英語科	○Be 動詞+動詞 ing 形で「～しているところ」という意味を理解する。
	日本語	●「今～しているところです」という表現を身につける。 ●「～しています」という表現を身につける。
主な活動	*絵を見て英文を言えるようにする。 *日本語で意味が言えるようにする。	

○は理解の目標 ●は表現の目標

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【1時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
① スポーツをしている人などの絵を見せて英文を聞く。その後、日本文を書く。 ◆日本語で文章を書かせ、日本語で表現させる。	T : What are you doing? S : I am playing baseball. T : 日本語で書いてみよう。 S : 「わたしは、やきゅうをしているところです。」
② 指導者がジェスチャーをして見せて、英文を聞き理解し、その後、日本文を書く。 ◆日本語で文章を書かせ、日本語で表現させる。	T : What am I doing? S : You are swimming. S : 「あなたは、すいえいをしているところです。」
③ ◇生徒がお互いにジェスチャーをしながら、英語で会話する。 ◆最初、日本語で表現しジェスチャーを行う。	◆「わたしは、サッカーをしているところです。」 ◇T : Are you skating? ◇S : No. I am playing soccer.
④ ◆「今～しているところです」といった表現を使い、日本語で意味を言い合う。	◆T : 今何をしていますか。 ◆S : 私は、～をしています

◇：活動・参加を促す支援

◆：日本語の理解や表現を促す活動

【教材・教具】 ・スポーツなどをしている絵 ・日本語カード
・英文カード ・

3 活動のポイント・工夫

- 多くの絵・文字カードを使い、視覚に訴えることで日本語の理解に役立てます。
- ジェスチャーゲームを行うことで雰囲気や和らげ、生徒同士の会話を促します。
- 日本語の読み書きが苦手なので、英語の授業ではあるが、日本語の読み書きの場を設定しています。

4 こんなとき、どうする？

Q 母語がスペイン語等の場合、日本語と英語といった2カ国語を同時に学べるのだろうか？

A 可能です。母語がしっかり定着していれば、混乱はありません。例えば、スイスからの留学生の場合、母語はドイツ語ですが、フランス語、英語、ラテン語を学び、現在は日本で日本語を学んでいます。日本語がスムーズに理解できています。

ただ、文型がよく似た言語の方が容易に学習できるようです。ですから、先ほどのスイス人留学生の場合、日本語よりも英語、フランス語の方が早く習得出来るようです。

モンゴルからの留学生の場合、モンゴル語の文型と日本語の文型がよく似ているために、英語より日本語の方が容易に理解できるそうです。

いずれにしても、母語となる言語をしっかり身につけることが重要です。

NO 14	ヒートアイランド	中・3	教科	国語
-------	----------	-----	----	----

1 概要

○は理解の目標 ●は表現の目標

対象	学年	第3・4学年(中3生・高校1年生)
	経験・知識	3年生の3名のうち2名は4年前にブラジル、ペルーよりそれぞれ来日。1名は2年次末に日本語・英語とも未学習の状態でブラジルより編入学。4年の1名は4年半前に、日本語未学習の状態で、フィリピンより来日。現在、編入学者の1名以外は日常生活には、支障はないぐらいの会話力はあるが、学習言語の不足のため、当該学年の教科の学習には、ほとんどついていけない。
	日本語力	小3～4レベルの漢字・語彙力。教科書の縦書き本文の音読にも慣れ、時間を掛けて解説すると、内容もほぼ理解することができる部分も増えているが、学年相応の設問に対する記述解答は困難である。
目標	国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校5・6年生の漢字、常用漢字も習得が進むようにする。 ○ 慣用表現(一朝一夕・季節を問わず、……ことがありうるのである)を理解する。 ○ 「先に述べたように、……」「すなわち、……である。」「……に達する。」「問題は……である。」「筆者(の推算)によれば……と考えられる。」「調査によれば……になっている。」「このことから…(がたいへん重要)である」等の結論、まとめの表現を理解する。 ○ 評論(説明文)の読解。
	日本語	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書の縦書き本文の音読にも慣れ、拗音・促音・撥音・長音の読み(発音)・書き(表記)が正しくできる。 ● 数字(1400万人、460万人、2030年ごろ、年に2から3パーセントずつ、2倍3倍、2031年、摂氏42度、東京23区、1987年、51.2パーセント、48.8パーセント、47パーセント、4.5度程度)が正しく読める。 ● 複文表現・接続詞・助詞の使い方が正しくできる。 ○ 「これを……と呼んでいる」「(都市)が……のである」「AおよびB」の表現を繰り返し練習する。 ○ 「熱せられる」(受身形)を理解する。 ○ 「考えられる」・「予測される」(可能表現)、「心配される」(自発表現)を理解する。→ ※「思われる」・「感じられる」は(受身形)ではないこと、「考える」・「予測する」・「心配する」との違いに気づく。
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> * 本文の音読をさせる。 * 不明の語句の意味を、辞書を引いて確認させる。 * 重要語句・類語表現・関連表現を探させる。 * 適宜、漢字・語句の小テストを行う。 * 「まとめ」の学習プリントの問題を解き、百字以内の感想文または意見文を書く。 	

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【4時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
①導入(1)：対話によるもの ◆ 予備知識や関心の程度を確認する。	T：なぜこの部屋は暑いと思いますか？ S：風が入らないから。 T：どうして風が入らないのかな？ S：建物が邪魔してるから。 T：それでは、大阪や神戸の町の中と、山や川や森がある田舎とでは、夏はどっちが暑いですか？ S：大阪や神戸の町の中です。

<p>②導入(2)資料によるもの</p> <p>◆ 図鑑や新聞記事で地球の温暖化や環境問題についての写真・解説のコピーを資料として用意する。</p> <p>※(1) 図鑑のコピー：『21世紀子ども百科 第2版 増補版』(小学館2003年刊)のp286～287の「ちきゅうおんだんか」より (2) 「等高線」の入った白地図のコピー</p>	<p>T:地球の「温暖化」とは、地球がどうなることですか? S:地球が、「熱く」なることです。 T:地球が「熱く」なると、どういうことが起こりますか? S:木がなくなったり、氷がとけたり、海面上昇が起きます。 T:木が育つには、何が要りますか? S:空気?肥料?太陽? T:木は根から何を吸いますか? S:水!</p>
<p>③教科書の本文の加工</p> <p>◆ 教科書と同様に縦書きのまま、ところどころにルビを補った「本文プリント」を用意する。</p> <p>※ 「ヒートアイランド」(齋藤武雄 著、東京書籍版『新しい国語1』p106～114)の本文加工プリント(ルビ付き・ルビなし・形式段落付きの3種類を作成)</p>	<p>T:「形式段落」を知っていますか? S:はい、書き出しが1字下がっているものです。 T:「。」や「、」の句読点に注意して、形式段落を1段落ずつ、交互に読みましょう。 S:「現代の都市、例えば東京は、昼間の…」</p>
<p>④ワークシート</p> <p>◇ 漢字・語彙・表現のワークシートを作成して、補助教材とし、「緑化・緑地化」の意味を理解する。</p> <p>※ 学習プリント1～4、内容確認プリント、小テストプリント</p> <p>◆ 「霧吹き」で水を手足に吹き付け、涼しく感じることに気づかせる。</p> <p>④まとめ</p>	<p>T:緑化・緑地化するとは、どういう意味ですか? S:地面を緑にすることです。 T:地面を緑にするには、どうしますか? S:草や木を植えます。 T:問11を考えましょう。土地を「緑地化」するには、どうしたらいいですか? S:木や草を植えたらいいです。 T:「蒸散活動」をすると、どうして気温が下がるのですか? S:葉(の裏)から、霧吹きのように水が出るから、涼しくなります。 T:本文を見てもいいですから、「内容確認テスト」の空欄に、(本文中にある)数字や言葉を記入して、意味の通る文にしましょう。</p>

◇:活動・参加を促す支援

◆:日本語の理解や表現を促す活動

[教材・教具] ・図 ・写真 ・ルビ付き本文 ・ワークシート ・「本文の朗読CD」

3 活動のポイント・工夫

- 評論(説明文)の読解なので、「形式段落」「意味段落」の違いを理解させることが重要です。
- 間や日本語のリズムにも注意して、本文を正確に滑らかに読めるようにします。
- 教材の中の語句類は、基本的なものも含め、できるだけ自分で辞書を引かせて音読させ、小学生用の辞書も併用して、不明なままにならないようにすることが重要です。
- 辞書の説明をよりわかりやすく短い表現に直したり、類語表現・関連表現を挙げたりして、少しずつ語彙力や表現力を高めていくようにしましょう。
- 適宜、漢字・語句の小テストを行って定着度を確認していきます。
- 本文の内容に対する理解を深め、学年相応の設問に対する記述解答形式に慣れさせることが必要です。
- 「まとめ」の学習プリント、百字以内の感想文または意見文を記述することにより、内容理解度を確認します。

4 こんなとき、どうする？

Q 長文作品を最後まで読み通すことができない場合は？

- A ① 1回目は、1文ずつ交互に読み手を替えて読む。その際、読みにくい箇所、読めない箇所には、鉛筆で線を引かせましょう。
- ② 2回目は、形式段落ごとに交替で読み、読めるようになった箇所の線を、消させていきましょう。
- ③ 3回目は、ルビなしの形式段落に番号を付したプリントを用意して、(数回)読ませてみるとよいです。

Q 「等温線」が理解できない場合は？

- A 地図の「等高線」のプリントを用意して見せ、同じ温度を結ぶと「等高線」と同じような図になるので理解できると思います。

Q 「意味段落」に分けることができない場合は？

- A ① 評論(説明文)は、(筆者の言いたい)大事なことが、最後の方に書かれているということ。
- ② 番号付き形式段落プリント(学習プリント2)を見ながら、本文を四段落に分ける「ワークシート」(学習プリント4の間19)にその形式段落の番号を書き込ませて、段意も確認できるようにすること。
- 結果として、「書き出し」が一字下がっている「形式段落」がいくつか集まると、意味を持つ大きなかたまりである「意味段落」になっていることが、「形式段落」の番号数で確認できる。
- これらの活動を通じて、「意味段落」と「形式段落」の違いも理解できるようになると思います。

Q 本文の「ポイント」がまとめられない場合は？

- A 「なぜ大都市の方が田舎より暑いのか?」「ヒートアイランドとは何か?」「地球の温暖化を防ぐため(=対策)には、筆者はどうすればよいと言っているのか?」「あなたができる温暖化対策は、何ですか?」等を、まず、口頭で答えさせ、ワークシートを使って、まとめさせていくとよいと考えます。

NO 15	三平方の定理の利用	中・3	教科	数 学
-------	-----------	-----	----	-----

1 概要

対象	学年	中学校3年
	経験・知識	2年前に母国で「ピタゴラスの定理」を学習している
	日本語力	日常の会話では、不自由を感じない程度までになっているが、文章で表現された内容で、特に漢字で表現されたものと既習内容との結びつきを理解するには時間がかかる。
目標	数学科	文章問題の解法がスムーズにできる。
	日本語	●「直角をはさむ2辺の2乗の和は斜辺の2乗に等しい。」を式にする。 ○「直方体の対角線の長さ」などの表現に慣れる。
主な活動	*立体模型で立方体、直方体、角柱、円錐等を理解する。 *見取り図を書き、直角三角形を見つけ出し、三平方の定理を使うことを理解する。	

○は理解の目標 ●は表現の目標

2 活動の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・【1時間】

子どもの活動と支援例	中心となるやりとりの例
<p>①「直方体、立方体、角柱」とは何かを知る。</p> <p>◆ことば「直方体・立方体・角柱」が何を示しているのかを立体模型で知る。</p>	<p>T：(プリントの問題で)直方体の絵が描けますか？</p> <p>S：(立体模型を見て)図を書く。</p>
<p>②「直方体 ABCD-EFGH」の見取り図を書く。</p> <p>◇斜め上から見た、立体の数学的な図法を知り定規を使って書き、A, B, C...の記号を記入する。</p>	<p>T：定規を使って書いて、記号 A, B, C, ... を書き入れてみよう。</p> <p>S：記号の順番は？</p>
<p>③「直方体の対角線」を見つけ、直角三角形を見つける。</p> <p>◆4本の対角線があり、どれも同じ長さであることを知り、1つの直角三角形を見つけ、ピタゴラスの定理を使って求めることができることを理解する。</p>	<p>T：「直方体の対角線」はどれでしょう？</p> <p>S：見取り図で AG です。</p> <p>T：ピタゴラスの定理は、どんな三角形で使えますか？</p> <p>S：三角形 AEG で使えます。</p>

<p>④類似問題「立方体 ABCD-EFGH」の対角線 AG の長さを定理を使って解く。</p> <p>◆見取り図、直角三角形を図で表現し、ピタゴラスの定理を使って解く事を理解する。</p>	<p>T:「立方体Mの対角線」はどれでしょう？</p> <p>S: さっきと同じように見取り図を書いて、$\triangle AEG$ で三平方の定理を使って求められます。</p>
---	---

◇: 活動・参加を促す支援

◆: 日本語の理解や表現を促す活動

[教材・教具] ・立体模型（15種類程度） ・問題プリント

3 活動のポイント・工夫

- 立体模型と母語辞典を使って、言葉と図とが瞬時につながるように指導します。学習内容は、すでに母国で学習しているので、日本語での問題がそれまでと同じように計算して解けることを理解させます。
- 正しい図を書くことによって、定理などの道具が使えることを理解させます。
- 日本語とイメージをいかに速くつなげるかが、問題を解くために必要な課題であることを知らせ、身の回りの具体物を自然に日本語で表現できるように、繰り返し学習します。

4 こんなとき、どうする？

- Q 「サイコロで・・・」というような表現が使われた場合は？
- A まず、サイコロの実物を用意して見せます。それが「立方体」と同じものであることを、理解させる方法が良いと考えます。サイコロの数学的な意味（立方体）を理解することが必要で、それができれば学習がすすむと考えます。

J S Lカリキュラム実践支援事業実施要項

平成19年4月11日
初等中等教育局長決定

1 趣 旨

「学校教育におけるJ S L（第二言語としての日本語）カリキュラム」（平成15年7月に小学校編公表、平成18年3月に中学校編公表）を活用した指導方法の普及・充実を図るため、J S Lカリキュラムを活用した指導実践を行い、効果的な実践事例を全国に発信するとともに、教員の指導力向上を目的としたワークショップを開催し、地域におけるJ S Lカリキュラムに関する普及活動の継続的な実施を促進する。

2 実施地域の要件

本事業は、事業の委嘱を希望する地域に居住する外国人の人数、国籍、地域性等を考慮した上で選定する。また、同一都道府県内に複数の選定地域があってもかまわないものとする。

3 事業の委嘱

文部科学省は、上記の趣旨を実現するため、外国人児童生徒に対する日本語指導に関する指導方法等の専門知識・技術等に精通した団体等に本事業を委嘱する。

4 事業の委嘱期間

都道府県等の教育委員会に対する実践研究事業の委嘱は会計年度ごとに行うが、原則として委嘱期間は2年とする。ただし、文部科学省は、必要と認めた場合には、委嘱期間途中で委嘱を解除することができる。

5 事業の実施

委嘱を受けた団体等は、各地域の実情に応じて、(1)及び(2)の取組を行う。なお、(1)又は(2)の取組のみを行うことも可能とする。

(1) J S Lカリキュラムを活用した教科指導の実践

委嘱を受けた団体等は、J S Lカリキュラム（小学校版及び中学校版）を活用し、下記、に関して、他の学校のモデルとなる授業実践を行う。

J S Lカリキュラム（小学校版）を活用した授業実践

（実施教科）国語科、算数科、理科、社会科

J S Lカリキュラム（中学校版）を活用した授業実践

（実施教科）国語科、数学科、理科、社会科、英語科

(2) J S Lカリキュラムに関するワークショップ開催

小学校・中学校において日本語指導の役割を担う教員等を対象に、J S Lカリキュラムによる指導方法等を含めた外国人児童生徒への教科指導について、演習等によるワークショップを実施する。

(3) 事業計画の提出及び変更

本事業の指定を希望する団体等は、事業計画書（別紙様式1）を毎年度、別に定める期日までに文部科学省に提出すること。また、事業計画の変更が生じた場合は、速やかに文部科学省に連絡し、その指示に従い計画変更の申請等必要な措置を講じなければならない。

6 事業に要する経費

文部科学省は、文部科学省の予算の範囲内で、事業の実施に要する経費を都道府県に支出する。

7 報告書の提出及び成果の普及

委嘱を受けた団体等は、当該実践研究の報告書（別紙様式2）を毎年度末に文部科学省に提出するものとする。また、実施要項5(1)を実施した場合は、指導案、指導方法等についても併せて提出する。

8 是正措置等

文部科学省は、事業の実施において、事業の趣旨に反すると認めるときには、必要な是正措置を講ずるよう求めるものとする。

また、文部科学省は、必要に応じ事業の実施状況及び経理処理状況等について、実態調査を行うものとする。

平成20年度兵庫県JSLカリキュラム実践支援事業実施要項

1 趣 旨

文部科学省「JSLカリキュラム実践支援事業実施要項」に基づき、JSLカリキュラムを活用した指導実践を行い、効果的な実践事例を発信するとともに、教員の指導力向上を目的としたワークショップを開催し、地域におけるJSLカリキュラムに関する普及活動の継続的な実施を促進することにより、「学校教育におけるJSLカリキュラム」を活用した指導方法の普及・充実を図る。

2 実施期間

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

3 実施内容

(1) 兵庫県JSLカリキュラム実践支援事業連絡協議会の設置

兵庫県教育委員会は、兵庫県JSLカリキュラム実践支援事業連絡協議会（以下「協議会」という。）を設置し、JSLカリキュラムを活用した日本語指導の在り方について研究協議する。

ア 委 員 学識経験者、日本語指導経験者、事業実施校担当教員、関係市町教育委員会指導主事、県立芦屋国際中等教育学校日本語指導担当教員等

イ 開催回数 年3回

ウ 協議事項

- ① JSLカリキュラムを活用した教科指導等の実践
- ② 事業成果の取りまとめ及び普及
- ③ 日本語指導にかかる研修の在り方
- ④ その他日本語指導に関すること

(2) 日本語指導担当教員等研修会（ワークショップ）の開催

ア 開催回数 年2回

イ 内 容

- ① 日本語指導が必要な外国人児童生徒の理解
- ② 日本語指導における基礎の習得
- ③ JSLカリキュラムを活用した指導の在り方の理解
- ④ その他JSLカリキュラム等を活用した日本語指導に関すること

(3) 日本語指導リーダー養成研修会

ア 開催回数 年3回

イ 受講者 日本語指導担当者研修会受講者で、各市町教育委員会より推薦を受けた者（原則として、各市町1名とする）

ウ 内 容

- ① 日本語指導の現状と課題
- ② 日本語指導における学習指導の工夫と改善
- ③ JSLカリキュラムを活用した教材開発

兵庫県JSLカリキュラム実践支援事業連絡協議会設置要項

(趣 旨)

第1条 「平成20年度兵庫県JSLカリキュラム実践支援事業実施要項」第3項第1号に基づき、「兵庫県JSLカリキュラム実践支援事業連絡協議会」を設置し、JSLカリキュラムを活用した日本語指導の在り方について研究協議する。

(名 称)

第2条 この会の名称は、「兵庫県JSLカリキュラム実践支援事業連絡協議会（以下「連絡協議会」という。）とする。

(協議事項)

第3条 連絡協議会は次のことを協議する。

- (1) JSLカリキュラムを活用した教科指導等の実践に関する事
- (2) 事業成果のとりまとめ及び普及に関する事
- (3) 日本語指導にかかる研修の在り方に関する事
- (4) その他日本語指導に関する事

(組 織)

第4条 連絡協議会は、委員長、副委員長及び委員を持って構成する。

2 委員は、別表のうちから、兵庫県教育委員会事務局人権教育課長が委嘱する。

(任 期)

第5条 委員の任期は、前条第2項の規定により委員を委嘱した日から平成21年3月14日までとする。

2 委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第6条 連絡協議会に委員長、副委員長を置き、委員のうちから互選する。

2 委員長は連絡協議会を総括し、これを代表する。

3 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があったときはその職務を代理し、委員長が欠けたときは、その職務を行う。

(会 議)

第7条 連絡協議会は、必要に応じて兵庫県教育委員会事務局人権教育課長が招集し、開催する。

2 連絡協議会においては、委員長が議長となる。

(委員以外の出席)

第8条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を述べ、又は説明させることができる。

(庶 務)

第9条 連絡協議会の庶務は、兵庫県教育委員会事務局人権教育課において処理する。

(その他)

第10条 この項目に定めるもののほか、連絡協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は平成20年9月16日より施行する。

別表

関係区分	対象者	人数
学識経験者	国公立大学又は私立大学の教授または准教授等 日本語指導に学識の深い者等	2
事業実施校	担当教員等	5
関係市町教育委員会	指導主事等	4

兵庫県JSLカリキュラム実践支援事業連絡協議会委員

水野 マリ子 (委員長)	神戸大学留学生センター教授
酒井 滋子 (副委員長)	(財)兵庫県国際交流協会日本語教育指導員
久山 悦孝	神戸市教育委員会指導主事
秋本 孝幸	芦屋市教育委員会主査
尾崎 眞弓	伊丹市教育委員会指導主事
川端 久美子	姫路市教育委員会指導主事
樫木 一彦	神戸市立神戸生田中学校教諭
前田 年生	芦屋市立浜風小学校教諭
藤井 哲人	伊丹市立池尻小学校教諭
西野 明美	姫路市立花田小学校教諭
金川 幾久世	県立芦屋国際中等教育学校教諭

平成19・20年度JSLカリキュラム実践支援事業実施教育委員会及び推進校

兵庫県教育委員会	県立芦屋国際中等教育学校
神戸市教育委員会	神戸市立立神戸生田中学校
芦屋市教育委員会	芦屋市立浜風小学校
伊丹市教育委員会	伊丹市立池尻小学校
姫路市教育委員会	姫路市立花田小学校

JSLカリキュラム実践事例提供校

神戸市立神陵台小学校
神戸市立本庄中学校
尼崎市立西小学校
西宮市立神原小学校
宝塚市立良元小学校
明石市立松が丘小学校
加古川市立平岡東小学校
加東市立社小学校
小野市立河合小学校
姫路市立東中学校
姫路市立東光中学校
加西市立北条小学校

(職名は平成20年12月1日現在)

平成 20 年度

J S Lカリキュラム実践支援事業

『J S Lカリキュラム実践事例集』

平成 21 年（2009 年）3 月発行

発行 兵庫県 J S Lカリキュラム実践支援事業連絡協議会